

筑西

Chikusei
筑西市勢要覧 2010

共生文化都市への大きな流れ――



*The great flow to the symbiosis culture city
of safety and spiritual peace*

夢のあるまち、
暮らしやすいまち、
市民の笑顔があふれるまち。



● 発刊にあたって

筑西市は、茨城県の西部、日本百名山の一つ「筑波山」の西側に位置する、自然の恵み豊かな中核拠点都市です。人口約11万人、205.35平方キロメートルの面積を有しております。市域はほぼ平坦で、利根川の支川、鬼怒川・小貝川が南北に貫流し、肥沃な田園地帯を形成しています。農業・商業・工業が連携した交流型産業構造のもとで発展を続けていますが、特に農業産出額は全国有数で、特産の米や梨、こだますいか、きゅうり、トマト、いちご、常陸秋そばは、全国の消費者の皆様から高い評価を受けております。

また本市は、日本一の大神輿と30数基の子ども神輿が渡御する下館祇園まつり、小栗判官の伝説にちなんだ小栗判官まつり、真岡鐵道SLの始発駅、市街地を流れる勤行川の鮭の産卵などが有名ですが、何といても2人の文化勲章受章者、陶芸家 板谷波山と洋画家 森田茂の故郷として知られており、このことは市民の大きな誇りです。

今後は「人と自然 安心して暮らせる 共生文化都市—市民との協働で進める筑西市の創造—」を将来都市像に、市民と行政が手と手をとりあって、元気なまちづくりを一生懸命に推進してまいります。そして「夢のあるまち、暮らしやすいまち、市民の笑顔があふれるまち」を実現していきます。

この市勢要覧は、「共生文化都市への大きな流れ」をテーマに、活き活きと輝く「人」にスポットを当てて編集いたしました。様々な分野で活躍され、本市の明るい未来に向けた「大きな流れ」を生み出しておられる方々を多く取り上げております。この冊子を通して、皆様に筑西市の現況や魅力をより一層深く理解していただければ幸いです。

筑西市長 吉澤 範夫

目次
Contents

プロフィール 02

巻頭特集1

筑西の源流。 03

陶芸家 板谷波山 04
「人間、板谷波山と筑西。」

洋画家 森田茂 06
「信念で生き、魂を描く。」

陶芸家 丸山輝悦さん 11

巻頭特集2

筑西のかがり火。 08

漆芸家 大西順さん 09

藤歩選手 川崎真裕美さん 10

タイアート画家 渡邊良子さん 11

陶芸家 丸山輝悦さん 11

第1章

連携と協働で進めるまちづくり 12

勤行川で鮭の稚魚放流会 12

男女共同参画の推進 14

まちづくりの達人 15

第2章

豊かさを育む産業と観光のまちづくり 18

歳時記

春夏／秋冬 18

筑西遊覧

真岡鐵道「下館駅発 S.Lの旅」 22

みどころ探訪 24

筑西の産業を支える人々

農業／商業／工業／工芸 26

第3章

健やかに安心して暮らせるまちづくり 32

あけの元気館 32

医療 34

子育て支援 35

高齢者福祉 36

障害者福祉 37

第4章

いきいきと伸びやかに育つ
人と文化のまちづくり 38

生涯学習・生涯スポーツ 38

幼児・学校教育 40

地域文化振興 41

歴史の遺産 42

第5章

心と美しく豊かな景観と
環境を大切にしたまちづくり 44

環境整備 44

防災・防犯 46

第6章

筑西市議会 47

空から見た筑西市 48

イラストマップ 50

筑西の 黎明。

黎明とは、明け方を差す言葉であり、物事が盛んに始まろうとしている時や、新たな文化が起ろうとしている時を意味します。平成十七年に誕生した筑西市は、今まさに黎明期の最中にあります。人と自然が調和を保ち、安心して暮らすことのできる「共生文化都市」の実現に向けた新たな取り組みが、市の至る所で胎動しているのです。また、過去から現在、そして未来へと続いていく社会の営みは、筑西市に豊かな恵みをもたらす幾筋もの河川の流れに例えることができます。

先人の遺した大いなる歴史の「流れ」を受け継ぎながら、新たな「流れ」を創造すること――

この市勢要覧では、「共生文化都市への大きな流れ」をキーワードに、市民と行政が活き活きと協働する筑西市の姿を、様々な角度からご紹介していきます。



県域を越えた北関東連携軸の新たな拠点として。

鉄道については、東西にJR水戸線が走り、下館駅を起点として、南は取手まで関東鉄道常総線、北には茂木まで真岡鐵道真岡線が運行されています。

この度合併して誕生した筑西市では、「人と自然、安心して暮らせる共生文化都市」を新市の将来像に置き、県域を越えた北関東連携軸の新たな拠点として、産業や観光・レクリエーション、文化をリードする魅力ある都市圏の形成を目指していきます。

筑西市は、平成17年3月28日に下館市・関城町・明野町・協和町の1市3町が合併し、誕生しました。東京から北へ約70km、茨城県の西部に位置し、東西は約15km、南北は約20kmで、面積は205.35km²です。

南は下妻市及び日本を代表する科学技術中枢都市「つくば」を含むつくば市に隣接し、東は桜川市に、西は結城市、八千代町及び栃木県小山市に、そして北は真岡市に隣接しています。

地形はおおむね平坦で、鬼怒川・小貝川などが南北に貫流し、肥沃な田園地帯を形成しています。

標高は、約20mから60mで、北部には、阿武隈山系の一部につながる丘陵地帯があり、その標高は約200mとなっています。

気候は太平洋型の気候であり、四季を通じて穏やかです。

道路体系は、市のほぼ中心を東西方向に国道50号、南北方向に国道294号が整備され、この2路線が交差した部分が市の中心部になります。さらにここから石岡市方面やつくば市方面、古河市方面に、放射状に県道が整備されています。

筑西市の人口 (常住人口)

人口：108,580人
男性：53,663人
女性：54,917人
世帯：35,350世帯
(平成22年3月1日現在)



葆光彩磁珍果文花瓶
(1917) 泉屋博古館分館蔵

板谷 波山

Hazan Itaya

巻頭特集1

筑西の源流。

未だ誕生して間もない筑西市ですが、その源流には、豊かな文化を湛えた歴史の「流れ」があります。それを象徴するのが、筑西が生んだ二人の文化勲章受章者、陶芸家板谷波山と洋画家森田茂です。

この特集では、わが国を代表する芸術家である二人の生涯を通して、私たち筑西市が「共生文化都市」を実現するにあたって、引き継ぐべき文化の潮流を辿ります。



森田 茂

Shigeru Morita



黒川龍石橋 (2000) (2000) 茨城県美術館蔵



葆光彩磁珍果文花瓶 (1917) 重要文化財 泉屋博古館分館蔵

近代の陶磁器として平成14年に宮川香山の作品と共に初めて国の重要文化財に指定された作品。波山の作品は、「葆光釉」と呼ばれる光を包み込むようなやわらかな質感の釉薬に特徴があり、「葆光彩磁珍果文花瓶」でも大型の器面全体をむらなく覆い、その柔らかな光の表現は独自の世界を創り出しています。波山は、葆光釉の他にも「彩磁」「白磁」「青磁」など様々な技法、また中国の吉祥模様やインドネシアの更紗の模様を典拠とするなど、デザインにおいても学習の成果を遺憾なく発揮しました。



彩磁菊花図額皿 (1911) しもだて美術館蔵

明治44年、第2回全国窯業品共進会において、まる夫人と共に皇后陛下の御前で制作した作品。大正13年、下館尋常高等小学校へ作者寄贈。



陶片が語る舞台裏

東京田端の工房に積み上げられた陶片。作品には妥協をせず、理想を追求し続けた板谷波山は、納得のいかない作品はその場でたたき壊しています。その陶片に光を当てたのが学習院大学教授 荒川正

明さん。著書「板谷波山の生涯」で知られる板谷波山研究の第一人者です。荒川さんは「世に送り出さずに壊した作品のカケラですから、そこに光を当てることは板谷先生の意思には反するかもしれない。けれど、汚れをクリーンングしたら、陶片が寶石のように輝きだしたんです。現存する作品にはない技法や作風を陶片に見つけることもある。なぜ、壊してしまったのかと思うくらい素晴らしい陶片もある。ひとつひとつのカケラから、人間・板谷波山の



板谷波山記念館「波山陶芸の舞台裏」展では、陶片の数々が展示された。



思いを受け取ることができま

す」と語っています。板谷波山の作品に対する姿勢は恐ろしくくらい厳しかつたそうです。また、実験的に作った作品や、新しい試みで作られた作品も多く、「作陶は」博打みたいなもので、半分以上は失敗覚悟だったでしょうね。

世に残された作品と壊してしまった作品の一線はどこにあったのでしょうか？そんな疑問を荒川さんに伺ってみると「自身の理想の中に納まるのか、だめなのか、その違いではないでしょうか」と答えて返ってきました。極貧にあえぐ修羅場のような暮らしの



彩磁草花文花瓶 (1940) しもだて美術館蔵



映画『HAZAN』（桜映画社 2003年）監督：五十嵐匠 出演：榎木 孝明、南 果歩 他

「人間 波山」を理解する上で大きな助けとなるのが、作陶に全てを懸けた若き日の波山と、彼を支える家族の姿を丹念に描いた映画『HAZAN』。多くの市民の協力のもと、実際に市内で撮影されたシーンも見所。

板谷波山記念館

1980年（昭和55年）、板谷波山の足跡を伝える記念館として、生家敷地内に開館。
開館時間／10時～18時（入館は17時30分まで）
休館日／毎週月曜日・年末年始（12月28日～1月4日）※祝日の場合はその翌日
入館料／しもだて美術館との共通券300円、単独券200円 小中学生・高校生は無料
住所／筑西市田町甲866（水戸線下館駅北口より徒歩10分）
問い合わせ／0296-25-3830



金沢での教員時代、石川県立工業高校の同僚や学生と写真に収まる波山（前列2列目中央）。経済的にも人脈的にも恵まれ、陶芸修業には最適な環境であった。7年間の研鑽の後、波山はこの安定した生活をなげうつことになる。

陶聖、板谷波山
没後47年、今なお板谷波山を越える陶芸家は現れていないと言われています。板谷波山は日本の近代陶芸の開拓者であり、陶芸家としては初の文化勲章受章者です。本名は板谷嘉七。1872年（明治5年）真壁郡下館町（現・筑

西市）で醤油醸造業を営む家庭に生まれました。東京美術学校（現東京芸術大学）彫刻科に入学のため上京、岡倉天心・高村光雲らの指導を受けました。同校を卒業後は石川県立工業学校に主任教諭として採用され、陶芸の指導を担当。本格的に作陶に打ち込むようになり、職を辞し陶芸で

日本近代陶芸の祖として、数々の輝かしい功績を遺した板谷波山。九十二年の生涯を通じ芸術の極地に挑み続けた偉人の足跡を辿ると、そこには人間味豊かな彼の実像が浮かび上がってきます。生誕の地である筑西で、「人間・板谷波山」の魅力に出会ってください。

人間、板谷波山と筑西。

身を立てることを決意します。「波山」の号は「筑波山」に因んで名づけられたもの。波山が東京都田端に工房を開いた時には、遙か彼方に見える筑波山の雄姿に心を打たれたといっています。

厳しさと優しさ

作品に向き合う時は妥協を許さず、近寄りたいたい険しい表情を見せる板谷波山。けれど来客があると、にこやかに客人をもてなしユーモアあふれる四方山話をして、人を笑わせることが好きでした。枯れ木に花が咲いたり、実がなったりするのは板谷家では良くあること。豆腐と焼海苔を使い鰻のかば焼きそっくりに作った料理が宴席に出されたこともあり、茶目つけたっぷりだったと孫の村田あき子さんは語っています。

まる夫人の内助

どこまでも己の理想美を追

求することは、同時に貧困との闘いでもありました。波山が貧困に屈せず、芸術に精進できたのは、台所を守ってきた妻のまるの功労が大きいです。まるは芯の強い女性で、体裁を気にせず、なりふりかまわぬ天真爛漫な性格。貧乏の底にあっても窮状をなんとかしのぎながら、くよくよせず前に進んでいく楽天的な性格が、陶芸家・波山の躍進に大きな役割を果たしています。

ふる里への思い

太平洋戦争時、郷里下館町に疎開したのをはじめてとして、波山と筑西の関わりは生涯を通じて絶えることがありませんでした。良く知られている話ですが、



まる夫人とともに。

波山は1933年から約20年間、下館町に住む80歳以上の高齢者に、長寿を祝して自作の鳩杖を贈り続けました。その数319本。また、郷里の日中戦争戦没者遺族を励ますうと、およそ18年をかけて全ての遺族に香炉や観音像を寄贈（281戸）。波山は仕事の手で仕上げています。最晩年には、私財を投じて郷里に奨学金制度を設立。現在でも、下館一高・二高に在学する四年制大学進学者を対象にして運営されています。

こうした逸話の数々からは、博愛の心に溢れた波山の人柄が偲べれます。そしてそこには、自分を生み育ててくれた郷里の人たちへの恩返し



高齢者に贈られた鳩杖。「鳩は食事の時むせない」ことに由来。



郷里の日中戦争戦没者遺族を励ますため、無償で配られた観音像。

信念で生き、魂を描く。

平成21年に101年の生涯を閉じるまで、日本洋画界を牽引し続けた巨匠 森田茂。主に日本の郷土芸能を題材にし、絵の具を原色のまま厚く盛り上げた色彩豊かで重厚な作風で知られています。それによって彼が表現したものが、そして彼と郷里・筑西との関係を探ります。

巨星、森田茂

洋画家・森田茂は1907年（明治40年）真壁郡下館町本城町に生まれました。茨城県師範学校（現茨城大学）を卒業後は現在の大田小学校の教員に。デッサンを重視して教えたことから『デッサン先生』との愛称で呼ばれたそうです。その後、画家を志し上京。1931年に同じ茨城県出身の熊岡美彦が開設した熊岡洋画研究所に入所しまし



自画像 (1929) しもだて美術館蔵

小学校の教員時代、子どもたちの絵に甲乙などの点をつけず、余白に「よるしい」「カンバレ」といった言葉を記していたという。森田の人格の一端が伺えるエピソードである。



老松と富士 (1994) しもだて美術館蔵

さんが海産物を売り歩くなど生活を支えました。「戦前・戦後の混乱期に画家を続けられたのは妻のおかげ。感謝していますよ」と生前よく語っていたそうです。

1966年に山形県羽黒山地方を訪ねた時に、偶然目にした郷土芸能黒川能に強く惹かれ、『黒川能』を題材とした作品を書き上げます。その作品が第9回日展で文部大臣賞を受賞。その後も『黒川能』を描き続けることは生涯のテーマとなり、1970年に

は、前年の日展に出品した『黒川能』により日本芸術院賞を受賞しました。

創作の源

森田茂の絵は、原色を多用し、絵具をキャンパスにたたきつけたような画風が特徴。一見して描かれたものの形は判然としませんが、距離を置いて眺めると、厚く塗られた絵具の重なりから像が浮かんできます。油絵具は本来、ものを克明に描くのに適した画材ですが、森田はあえてそのような描写はしていません。彼が、常識的な油絵とは違う、独特の画風に行き着いたのは何故だったのでしょうか。そして、そこに彼が込めたものとは何だったのでしょうか。

例えば、森田が感銘を受け、何度となく描いた『黒川能』。彼は、



容姿(すがた) (1999) しもだて美術館蔵

黒川能を観た時の印象をこう述懐しています。「人間本来の魂が揺さぶられるような感動がありました。ぼくは、黒川能そのものを描くんじゃなく、それを見て感動したものを図画にしているんです」。彼は対象の表面的な姿ではなく、その奥に宿っているさまざまな精神性、いわば「魂」をこそ描いていたと言えるで

しょう。それは、ただ綺麗で優雅な表現では描き得ないものであり、森田作品の強烈な色彩や厚塗りの量感、奔放な描写は、まさに必然の産物だったのです。

また、常人には理解しづらいことですが、彼はその研ぎ澄まされた感性によって、単なる物質以上の存在を常に感じ取っており、それが創作の

てはいけない。無心より一心になること。魂のようなものを描きたい」。森田は自らそう語っています。

また彼の作品は、そのほげしい見かけと違い、一気呵成に手早く描かれたものではありませぬ。意識を集中させ、チューブからキャンパスにしぼり出した絵の具をナイフで塗りつけ盛り上げていく。精神力を要するその作業を積み重ね、完成するまでに2年も3年も、ものによっては5、6年もの時間をかけ丹念に描いているのです。長い長い時間をかけて森田が向き合った作品の中には、彼が対象からすくいとった「魂」とともに、

心の原風景

森田茂は、飛騨高山をはじめ日本の各地へ画題を求めて旅行し、その土地の風物から受けた感動を数々の作品に描いています。郷里である筑西への思いには、また特別なものがあったようです。

弟子の飯泉俊夫さん（洋画家・小林在住）に話を伺うと、森田は折に触れて、ふる里で過ごした日々を回想し、思い出話をしていたといえます。多くの弟子の中でも、同郷の飯泉さんとは、特に郷里の話をする機会が多かったそうです。幼少の頃の本城町周辺、

田町の急な坂道、幅広い大町通り。埋め立てを始めた頃の下館駅。中館台から眺めた筑波山、下館小学校から見下ろした勤行川……。東京都内のアトリエに絵を習いに来た飯泉さんに「下館小のそばにあったもみの木は、まだあるのだろうか」そんな話をしたそうです。森田にとつて郷里・筑西は、創作活動の原点であり、心の原風景となっていたのでしよう。

昭和61年、福祉センターで行われた展覧会には1万人の来場者があり、市民の関心の

彼自身の「魂」も込められているに違いありません。



自宅アトリエにて。「ほとくの仕事場は足の踏み場もないような所で、歩ける道は獣道（けものみち）のようだからね……」。

高さに本人も驚いたそうです。「私の作品をふる里に遣りたい」と、初期の作品を含む代表作約60点を、筑西市に寄贈しました。

また、最晩年に至るまで筑西を度々訪れ、郷里の人々との交流も深いものがありました。ふる里を訪れる度、森田はきんびらこぼう、里芋の煮ころがしといった懐かしい味に舌鼓を打ち、下館の夏祭りに行くのを楽しみにしていたそうです。

絵を描き続けた生涯

亡くなる直前まで、車いすに座りキャンパスに向かっていた森田茂。創作意欲は衰えを知らず、精力的に新作に挑み続け、老境に至って作品がますます華やいできたと評価

されていました。彼にとつて「生きることは、すなわち描くこと」であったと言えるかもしれません。

2009年、病の床に伏

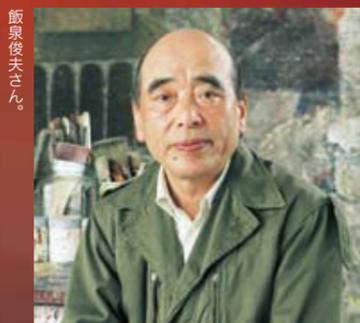
せた森田の呼吸が日ごとにか細くなってきたある日、飯泉さんは病室で二人だけの時間を過ごしました。「先生、長い間たいへんお世話になりました。先生がお示し下された文化はこれからみんなで真剣に守らせていただきます」。最後の別れを予感した飯泉さんが、悲しみを堪えながらそう伝えると、森田の目に細い涙が光りました。静寂の中で安らかな顔が神々しく見えたそうです。

飯泉さんは現在、自ら画家として活躍する傍ら、師・森田茂から授かった教えを次の



下館みこし祭 (1986) しもだて美術館蔵

郷里・下館の祇園祭りを描いた名品。お祭りの混沌とした熱気、そのものを写し取るかのような、迫力あるタッチで描かれており、森田作品の特徴が良く現れている。



飯泉俊夫さん。

しもだて美術館
2003年、郷土ゆかりの作家による作品の収蔵・展示を主な目的として開館。しもだて地域交流センター・アルテリオの3階。
開館時間／午前10時～午後6時（入館は午後5時30分まで）
休館日／毎週月曜日・年末年始（12月28日～1月4日）※祝日の場合はその翌日
入館料／板谷波山記念館との共通券300円、美術館のみ200円 高校生以下は無料 ※企画展の共通券は、その都度定める。
住所／筑西市丙372
問い合わせ／0296-23-1601

筑西の かがり火。

筑西の先人が、絶やさぬように燃やし続けてきた「かがり火」は、今を生きる私達の心に温かく灯っています。その炎は、筑西市から世界へ、そして未来へと繋がっているのです。この特集では、輝かしい業績を誇る筑西市に縁の深い方々をご紹介します。

筑西市名誉市民 (決定順・敬称略)

板谷波山 (本名：板谷嘉七) かしち
昭和 26 年 3 月 28 日決定
日本芸術院会員
文化勲章受章 (陶芸家として初の文化勲章受章)
わが国陶芸界の振興に貢献 (昭和 38 年 10 月 10 日死去)

関彰 せき あきら
昭和 37 年 12 月 21 日決定
関彰商店 (現：関彰商事) 社長
下館商工会議所会頭 (初代)
産業・経済の振興に貢献 (昭和 39 年 6 月 11 日死去)

松岡龍雄 まつおかたつ お
昭和 43 年 10 月 1 日決定 (旧明野町)
上野中学校に私財を寄附・町役場庁舎建設に私財を寄附
昭和 52 年 9 月 30 日決定 (旧下館市)
元下館市長・地方自治の振興に貢献 (平成元年 12 月 31 日死去)

沼口惣五郎 ぬまぐちそうごろう
昭和 46 年 11 月 3 日決定
鳥羽小学校に私財を寄附
奨学資金として私財を寄附
教育文化の振興に貢献 (昭和 56 年 2 月 15 日死去)

森田 茂 もりた しげる
平成 4 年 6 月 16 日決定
日本芸術院会員
文化勲章受章
わが国洋画界の振興に貢献 (平成 21 年 3 月 2 日死去)

中尾喜久 なかお きく
平成 4 年 11 月 12 日決定
自治医科大学学長 (初代)
わが国学術の発展に貢献 (平成 13 年 6 月 21 日死去)

赤城宗徳 あかぎ ひねり
平成 7 年 12 月 6 日決定
元衆議院議員 (15 期)
元農林大臣
郷土の代表として国政の場で活躍 (平成 5 年 11 月 11 日死去)

加倉井正利 かくらい まさとし
平成 8 年 12 月 17 日決定
元明野町長 (7 期)
地方自治の振興に貢献 (平成 2 年 5 月 26 日死去)

稲葉清右衛門 いなばせい う えもん
平成 17 年 2 月 18 日決定
ファナック株式会社相談役名誉会長
精密機械工業技術の飛躍的な進歩に貢献

筑西市市民栄誉賞受賞者 (決定順・敬称略)

中丸三千繪 なままる みちえ
平成 13 年 1 月 19 日決定
声楽家
平成 2 年、マリア・カラス国際声楽コンクールにおいて、地元イタリア人以外の外国人として初めて優勝。日本を代表する世界的なソプラノ歌手として確固たる地位を築き上げる。

片山晋典 かたやまし ぬぶ
平成 13 年 1 月 19 日決定
プロゴルファー
平成 12 年、初の賞金王に輝く。20 歳代での賞金王は、ツアー史上 3 人目の快挙。

田宮謙次郎 たみやけんじろう
平成 14 年 1 月 30 日決定
元プロ野球選手
昭和 24 年、大阪タイガースに入団。投手として活躍後、打者に転向。昭和 33 年、セリーグにおいて首位打者を獲得。引退後、東映フライヤーズ監督、阪神タイガースヘッドコーチを経て、平成 14 年に野球殿堂入り。

大西 勲 おにし いさお
平成 15 年 10 月 16 日決定
漆芸家
日本伝統工芸展文部大臣賞をはじめ数々の賞を受賞し、平成 14 年、重要無形文化財「髹漆 (きゅうしつ)」の分野で重要無形文化財保持者 (人間国宝) に認定。

川崎真裕美 かわさき まゆみ
平成 20 年 12 月 1 日決定
競歩選手
日本代表として 2004 年アテネオリンピック・2008 年北京オリンピックに出場を果たし、女子競歩競技の全種目において日本記録を樹立するなど、国内における同競技の第一人者として活躍。

渡邊良子 わたなべよしこ
平成 20 年 12 月 1 日決定
タイプアート画家
ハンディキャップを持ちながら、タイプアート画家として厚生大臣賞をはじめ数々の賞を受賞する。ハンディキャップを持つ人々のみならず、広く市民に生きる希望や勇気、感動を与えている。

Close Up 01

漆芸家 大西 勲 さん

Isao
Ohnishi

ものを作ることは生きること。

重 要無形文化財「髹漆」保持者 (いわゆる人間国宝) である大西勲さん。うつわの基礎となる漆地を曲輪でかたち作り、何層にも渡って漆を塗り重ねていくのが「髹漆」の技法です。卓越した技術の結晶ともいえる大西さんの作る漆器には、どんな思いが込められているのでしょうか。

ものづくりの原点となつた航空機

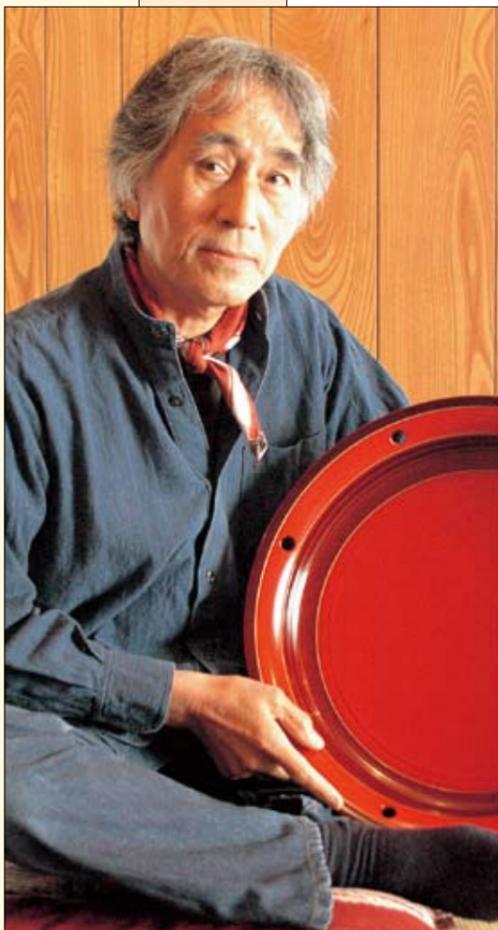
北九州の炭鉱の町で、大工の家に生まれた大西勲さん。戦後で遊び道具も少なかった子どもの頃熱中したのが、ソリッドモデル (精密模型) でした。図面を描き、木を削り塗装して複製機やプロペラ機を作る工程が、今から思えばものづくりの原点だったのではと大西さんは語ります。



曲輪造朱黄溜鉢 (1994) しもだて美術館蔵

蒔絵 (まきえ) や螺鈿 (らでん) のような煌びやかなものと違い、装飾を排した漆塗りそのものの美を追求するのが「髹漆」の特徴。それ故、精巧に作られた漆地の美しさも際立つ。

戦後の混沌とした時代には、とにかく生き延びるのに必死で、「何が本場で、何のために生きなくてはいけないのか」そんなことを考える余裕はなかったと大西さん。けれど、人生の岐路に立った時には、人が選ばないほうの道、つらいほうの道を選んできました。「貧しい炭鉱の町で、つらさを生き延びる糧にしていた。そんな時代でしたね」。



学ぶすべは本や映画にあつた

人はどう生きるべきか。大西さんは「怒りの葡萄」「エデンの東」「人間の条件」といった、多くの本や映画からそれを学んだといいます。「人は持ちなれないものを欲しがるけれど、身の丈で生きることが大切。光の当たるところもあれば、当たらないところもある、両方あるんだと教わったのも本からです」と大西さん。

また、大工の父から職人としての生き方を垣間見ます。「これを作らせたら右に出るものはいないと言われるのが職人のステータスでした」。そして大西さんが30歳の時、

師である赤地友哉氏と出会い、髹漆の技法を学びます。

木を見て根っこを思う

大西さんが作る漆器は、木曾地方の樹齢数百年の檜と、漆の木から掻きだした樹液を使って作られます。全て自然からの恵みです。檜木に丹念にカンナをかけ、薄い板を切り出し、丸めて曲輪にする。



漆地造りの工程。その技巧は、特に評価が高い。

PROFILE

漆芸家。1944 年 (昭和 19 年) 福岡県生まれ。木工や鎌倉彫を学んだ後、1974 年より赤地友哉 (重要無形文化財「髹漆」保持者) に師事。1988 年日本伝統漆芸展文化庁長官賞、2000 年第 47 回日本伝統工芸展日本工芸会総裁賞ほか受賞多数。2002 年重要無形文化財「髹漆」保持者に認定。2004 年紫綬褒章受章。

径の違う幾つもの曲輪を組み上げて器の形を作る。それから漆を塗り重ねていく。簡単には説明しましたが、完成までには気が遠くなるほどの工程と時間がかかります。 「私は木から漆を頂き、木を切つてものを作っています。木の寿命より、1 日でも長く残る作品を作れたらと願っています」。 庭には 1 本の漆の木が枝を広げています。「この木を見て、目には見えない根っこのところを考えると大切ではないでしょうか」と大西さん。

競歩選手

川崎真裕美さん

Mayumi Kawasaki

夢に向かって挑戦し続けていきたい。

競

歩6種目において日本記録を持つ、日本女子競歩の第一人者・川崎真裕美さん。アテネ、北京と2度のオリンピックに連続出場し、着実に成績を伸ばしています。現在、2012年に開催されるロンドンオリンピックでの入賞、メダル獲得を目指して、日々練習に励んでいます。



五輪への出場に際し、日本代表の公式スーツを着て、今後はロンドン五輪を視野に入れる一方、競歩という競技の言にも努めたい。

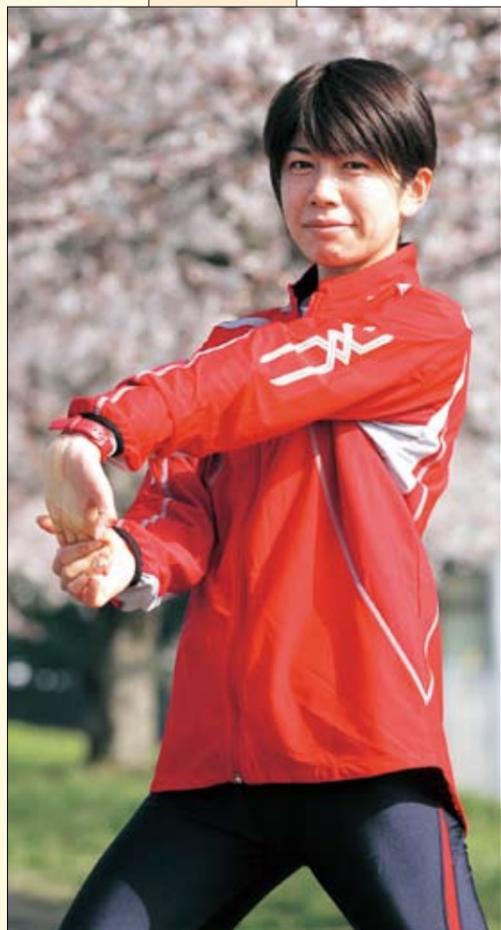
【競歩との運命の出会い】

下館二高2年生の夏、川崎さんに運命の出会いがありました。川崎さんが走る姿を見た陸上部顧問の先生から「競歩に向いている」と指摘されたのです。上昇志向の川崎さんは、それを聞くや「競技人口が少ない競歩なら、大舞台に立つチャンスが増える！」と、すぐに練習を始めたそうです。2ヶ月後には国体出場を果たし、10位にランクイン。県高校新記録に迫る好記録を出し、滑り出しは順調でした。しかし、その後タイムが伸び悩んだ上、貧血で倒れるなどのアクシデントが続き、挫折を味わいます。それでも「決して諦めない」という気持ちを持ち続けた川崎さんは、万全の体調で臨んだ高校3年の国体で5位に入賞。見事、県高校新記録を樹立しました。

【結果で恩返しをしたい】

「やれば出来る」。下館二高時代の経験が、今の川崎さんに繋がっています。高校卒業後も地元・筑西市の企業に所属して競歩を続け、次々と日本新記録を塗り替える活躍。夢であったオリンピックへの出場が現実のものになりました。アテネに続いて出場した北京オリンピックでは、日本人最高位の14位の成績を残しています。

現在は富士通(株)陸上競技部に所属し、国内外で開催される選手権に出演。24時間365日をフルに活用し、「結果で恩返し」をモットーに全力で競技に取り組んでいます。川崎さんに競歩の魅力を感じ



うと、「続けられ続けるほど面白さが分かってくる競技で、それにつれて自分の競技スタイルも向上するんです。良い意味でクセのある競技だから、クセになつたらもう止められないんです(笑)」と語ってくれました。陸上競技では唯一フォームにルールがあり、守らなければ途中失格になる厳しい競技ですが、川崎さんは、効率良く綺麗な動きを保つことを常に意識しながら、より速く「歩く」ことを追求しているそうです。



北京五輪での勇姿。終盤で見事な追い上げを見せた。

川崎さんがゴールに向かいひたむきに歩き続ける姿、そして夢を現実にしていく姿は、応援する私たちを勇気づけ、胸が熱くなる感動を与えてくれます。「支えてくれた皆さんの人との出会いが自分の人生を形成しているんです。これからも応援してくれる皆さんに感謝の気持ちを忘れずにいたい」と川崎さん。

タイプアート画家
渡邊良子さん

Yoshiko Watanabe



PROFILE
生後すぐ高熱で「脳性小児マヒ」になる。1983年に姉の勧めで「チューリップ」を描いたのが第一作。その後、本格的にタイプアートに取り組み、各地で個展開催。2009年、筑西市市民栄誉賞受賞。



渡邊さん愛用のタイプライター

私が抱いた夢は必ず実現します。

愛称は「おっこ」さん。おそらく世界でも珍しい、タイプライターを使って絵を描く「タイプアート画家」です。作品は、幼少時の病により手足を動かせないというハンディを負った彼女が、わずかに動かせる足先だけを使ってタイプライターの「◎」と「○」を打つことで描かれます。陰影は、何度も重ね打ちすることで表現。根気のある作業でも、途中で諦めたことは一度もないとのこと。絵を通



して「私のがんばりを伝えたい。くじけそうになったこともあるけど、ここでやめたら女がすたるという気持ちで描

いています(笑)」。その甲斐あって、個展の開催、画集の出版、ギャラリーの開設…といった、渡邊さんが思い描いていた夢が、一つ一つ実現していきました。もし、タイプアートを描いていなければ？と訪ねると「(そんなことは)考えられない。生きていかなかったかも」と笑顔が。諦めずに努力すれば夢は叶うということ、渡邊さんは作品を通して私たちに語りかけています。

ギャラリーおっこの室

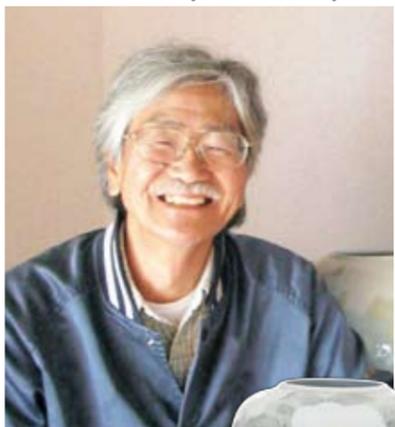
200点を越える渡邊良子さんの作品の中から、毎月違った作品が掛けられている。東京デザインシーのタワー・オブ・テラーは制作時間314時間、80×170cmの大作。

http://www.intio.or.jp/okko/
〒308-0021 筑西市甲 20
JR 下館駅北口下車徒歩 8 分
TEL0296-22-5500 FAX0296-25-3339
開館時間/午前 10 時～午後 5 時
休 館 日/毎週月曜・火曜日(祝日は開館)・年末年始
入場無料 駐車場完備 車椅子用トイレ有り



Teruyoshi Maruyama

陶芸家
丸山輝悦さん



PROFILE
陶芸家。昭和 18 年生まれ、筑西市大関在住。東京芸術大学大学院卒業後、陶芸(磁器)の世界に。日本工芸会正会員。茨城県芸術祭板谷波山賞受賞。



「ナニワバラの壺」(2009)

ひと目見て、自分の作品だと言われるものを作りたい。

東京生まれの丸山さんが筑西に引越すことを決め、知人から紹介された家は、元農家の古民家でした。玄関を入ると土間があり、あり合わせの木で梁が組まれたその家には、明治の大火を免れた歴史のある家。「古い家をどうにか住めるようにして(笑)」。けれど、今では茶室を作ったり、少しずつ手を加えて、工房も使いやすくなりました。広い、日当たりは良いし、東京ではこんな暮らしは出来ない



工房の一角。彫刻を施す前の作品が並び。

心温かく人情味のある人が多いことだそうです。丸山さんは、東京芸大大学院卒業後、陶芸の道に進みました。九州の有田で10年研鑽を積んだ後、筑西へ。「こちよこちよ物をいじっているのが相に合っているんでしょね。ただの土が形になっていく面白さに惹かれ、磁器を始めました。ろくろを挽いて、自分の思った形が出来た時はうれいすね。」納得のいく形を追求し、色を追求する。



工房の窯。微妙な温度の変化に細心の注意を払う。

白でも、一つとして同じ白はない。「ひと目見て、丸山の作品だと言われるものを作りたい」と丸山さん。いつでも向上心を持ち、自分に満足しないのが「ものづくり」なのだと語ってくれました。

地方自治体の自立的な発展のためには、市民と行政が対等なパートナーとして連携・協力していくことが不可欠であり、相互の信頼に基づき力を結集し、協働のまちづくりを推進していく必要があります。筑西市では、市民の積極的な参加と協力により、各地で様々な活動が行われ、盛んに市民交流がなされています。本市の魅力は、そこに住む市民の魅力と云えるのです。



母川回帰。鮭の帰る街、筑西。

勤行川で鮭の稚魚放流会

2月下旬、市民ボランティアによって育てられた鮭の稚魚が、大海原へと旅を始めました。約5年後、4000kmを航海して成長した鮭は、ふる里である勤行川に帰ってきます。いつまでも、鮭が帰ってこられる美しい筑西市でありたい—その思いが、市民の環境意識を高め、より良いまちづくりの原動力となっています。



勤行川で鮭の稚魚を放流

主催者と来賓による放流。

ぼせんかいき



市民の手で育てられた鮭の稚魚

2月下旬、冬の寒さをはね飛ばすような賑やかさで、鮭の稚魚の放流会が勤行川の勤行緑地（中館観音寺東）で開催されました。放流されたのは、およそ5センチに育った約3万尾の鮭の稚魚。長靴を履き、バケツに入った稚魚を川に放つ子ども達は、口々に「大きくくなって戻って来いよ」「元気でね」と声をかけ、鮭の旅立ちを見守っていました。

鮭の稚魚を育てたのは「NPO未来につなごう鬼怒川・小貝川の会」のみなさん（代表古沢諭さん）。自然産卵で育った稚魚だけではなく、より多く



稚魚を放流した後、参加者によって行われた勤行川河川敷の清掃作業の様子。きれいな川を守る大切さを、次世代に伝える効果も期待される。

鮭が帰る川づくり

の鮭の遡上を促すため、栃木県「鮭守の会」のみなさんが人工ふ化させた稚魚を預かり、放流できる大きさになるまで育てています。命の大切さと、その命を育む川が美しくあることの大切さを、実感できる取り組みです。

昔から、勤行川には鮭の遡上が見られました。鮭の稚魚は勤行川から小貝川へ、そして利根川を下り、太平洋の海原へと旅を続けます。それらの鮭は太平洋を北上、オホーツク海、ベーリング海を巡りカナダ・アラスカ海域を経由して、再び利根川に戻ってくるのです。鬼怒川・小貝川の会の古沢さんに伺うと、勤行川の環境を守っていくことはもちろん大切ですが、川は世界へとつながっていることを知ってもらいたいと言います。「鮭がふる里の川に戻ってくるサイクルが、段々遅くなっています。昔は3年程で帰ってきた鮭が、今では4、5年かかっている。それは、ベーリング海で鮭が食べるエサが少なくなっているからとも言われています。稚魚が成長して、自分の生まれた川に帰るまで、それぞれの川や海の環境を良くしていか

帰ってきた鮭たち

2月に放流した鮭は、4年の月日をかけて、太平洋の大海原を泳ぎながら成長します。そして、産卵のために、利根川の河口から150キロもの道のりを遡り、ふる里の川へと帰ってくるのです。

鮭が産卵するためには、水質や水温など様々な条件が揃っている必要があります。川底の小石を使って産卵の場所を作るため、川底の環境も大切な要素です。筑西市のように、産卵の場所としての条件が揃っており、市街地の橋上や河川敷から鮭の姿が見られる地域は全国的にも珍しく、市民が誇れる秋の風物詩と言えるでしょう。市民は河川の清掃作業などをして、鮭が帰ってくることでできる河川環境づくりを心掛けており、鮭の遡上は自然環境保護のシンボルでありバロメーターになっています。

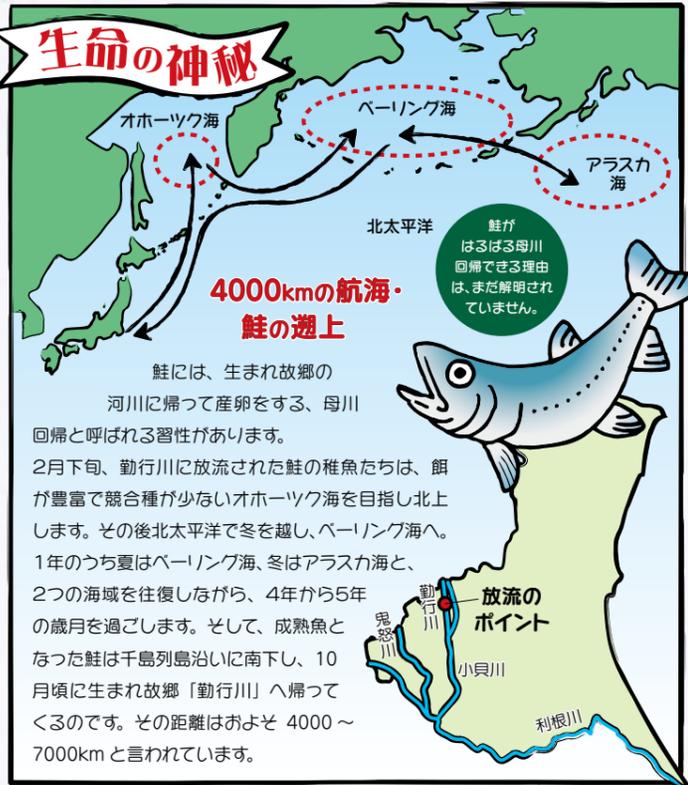
未来につなぐ環境づくり



「NPO未来につなごう鬼怒川・小貝川の会」代表 古沢諭さん。

「鮭の遡上」を通して、子ども達が地球環境を考えるきっかけを作りたい。自然に宿る生命の息吹と直にふれあつて自らの肌で感じ取る体験をすることが、子ども達の意識を変えていきます。川に行き、川に入り、魚に触ってみる。そんな体験が、川の環境だけではなく、地球環境を考えるきっかけとなるかもしれません。河川の水質を数値で表すよりも、河川がきれいになり鮭が帰ってきたという事実のほうが、環境を身近に受け止めることができるでしょう。

また、市民一人ひとりが、家庭排水に気を付けたり、ゴミを捨てないなど川に対する意識を高めるだけでなく、節電や節水、CO₂削減など広い意味での環境整備に気をつける必要があります。傷だらけになりながらも、力強く川を遡り、産卵のためにふる里を目指して帰ってきた鮭を間近で見た経験は、子ども達が大人になってから大きな宝物となっていくでしょう。



生命の神秘
オホーツク海
ベーリング海
アラスカ海
北太平洋
鮭がはるばる母川を遡る理由はまだ解明されていません。
4000kmの航海・鮭の遡上
鮭には、生まれ故郷の河川に帰って産卵をする、母川回帰と呼ばれる習性があります。
2月下旬、勤行川に放流された鮭の稚魚たちは、餌が豊富で競合種が少ないオホーツク海を目指し北上します。その後北太平洋で冬を越し、ベーリング海へ。1年のうち夏はベーリング海、冬はアラスカ海と、2つの海域を往復しながら、4年から5年の歳月を過ごします。そして、成熟魚となった鮭は千島列島沿いに南下し、10月頃に生まれ故郷「勤行川」へ帰ってくるのです。その距離はおおよそ4000～7000kmとされています。



『時の蔵』の外観。使用されている石材や建築技術が歴史的価値を持っている。なお、平成20年度に市の「まちづくりファンド事業」を活用してトイレが整備された。

協働のまちづくり

Case 1

文化遺産の保存活動

下館・時の会

過去から未来へ「時」を繋げるまちづくり

平成14年、旧下館市内の由緒ある石蔵の保存を目的として、市民が集まり「下館・時の会」が結成されました。現在、同会はその石蔵を活動拠点とし、下館の文化遺産の保存・調査を行っており、地域の歴史を次の世代に繋げる活動をしています。

筑西市には、蔵や西洋館、古民家など、往時の姿を今にとどめる古い建造物が数多く残されています。平成14年、下館一の傑作といわれる石蔵が取り壊されることになった際、それを惜しむ市民の有志が集まって保存活動を行いました。それが現在の「下館・時の会」に発展し、石蔵は「時の蔵」と名付けられました。元は時計店の石蔵であったことにちなんだ命名です。

「時計店の蔵を片づけていると、昔作られた下館町襟章の台帳が見つかりました。帳簿には襟章が幾らだったか書かれていて、商売の足跡が分かる。小さな襟章ひとつからでも、その当時の人たちの姿が生き生きと見えてくるんです」そう語ってくれたのは「下館・時の会」の代表を務める一木努さん。建物に限らず、お祭りや言葉、どんな食べ物を食べていたかなど過去を調べると、まちに暮らす人々が歴史を作っ



平成21年に開催された企画展「波山と茨城工芸会展」での展示（2階部分）。

「時の会」のメンバーは約50名。学生から年配の方までおり、様々な職業ではないでしょうか。

また、「時の蔵」以外の会場でも、下館の古御輿の展示会を開いたり、毎年3月3日の板谷波山生誕の日には、波山の魅力を紹介する企画を行っています。「急にまちは変わらなければ、今やれることをやっていくことが大切です。他の市民グループや自治会とも協力して、より良いまちにしていきたいですね」と一木さん。

てきたことが良く分かるそうです。例えば蔵ひとつでも、石工・瓦屋・左官屋・大工などの技術を持つ職人がいて、その職人に仕事を頼んだ商人がいた。なぜそこに蔵があるのか、どう続いていたのか、他の地域との関係性なども含めて、いろいろな事柄や人の姿が見えてくるんです。古い建物を壊すということは、その中に納められていた全てがなくなってしまうということ。写真や地図などが捨てられると同じ時に、その場所が続いてきた「時」まで歩みを止めてしまうのです。市民の目でまちづくりを考えた時に、古き良きモノを大事にして、このまちがどんな歩みをしてきたかを調べ学んでいくことで、知り得ることがたくさんあるのではないのでしょうか。

市民の皆様がご要望に応じて、市の職員などが講師となって出向き、市の施策や事業について分かりやすく説明する制度です。市内に在住、在勤、在学する10人以上の団体であれば、どなたでもご利用いただけます。

メニューは87講座あり、市民生活、健康、医療、福祉、教育などに関する様々な内容の講座が用意されています。



「下館・時の会」代表、一木努さん。「市民団体ならではのネットワークの軽さを活かしていきたい。」



「文子」の料理教室

講演会「男女共同参画社会をめざして」

男女共同参画の推進

ただの理念で終わらせないために。

真の男女平等社会を目指して

近年、ライフスタイルや家族形態の多様化を背景に、女性の職場進出や地域活動への参加はますます活発となり、男女共同参画の視点を立った法制度の整備をはじめ、男女が共にあらゆる分野に社会参画できるよう様々な取り組みが進められています。

しかしながら、女性に偏る家事・育児・介護等の負担や、配偶者からの暴力、職場でのセクシャル・ハラスメントなど、社会参画を阻害する諸問題は依然として存在しており、性別による固定的な役割分担意識や、慣行の解消

に、社会全体で取り組んでいくことが求められています。

本市においては、講演会、セミナーの開催をはじめとする学習機会の充実や、共同参画意識の啓発に努めるとともに、女性の社会参画を積極的に支援してきました。

今後は、男女共同参画に関する条例を制定するとともに、「男女共同参画基本計画」を策定し、男女が互いに自立し、認め合う活力のある男女共同参画社会の実現を推進していきます。また、市民や事業者、関係機関等と連携を図りながら、市民意識の醸成や社会環境の整備を図っていきます。

まちづくりファンド事業



平成20年度に実施された事例の1つに、「駅南のにぎわいのある商店街と安心安全の地域づくり事業」があります。下館駅南口周辺に防犯カメラと防犯灯を設置し、年末年始にはイルミネーションを点灯しました。

（財）民間都市開発推進機構からの拠出金と、市民の皆様からの寄付金を活用して、市民活動団体が自主的に行うまちづくり活動を助成する事業です。

補助の対象となるのは、景観形成・伝統文化の継承及び歴史的施設の保全・観光の振興・安全安心なまちづくり等、魅力あるまちづくりや、まちの活性化に資すると認められる事業です。

まちづくり出前講座



数あるメニューの中でも、特に人気の高い「シルバーリハビリ体操」。立つ、座る、歩くなど、日常生活を営むための基本動作の訓練になり、高齢者の介護予防やリハビリに最適です。

市民の皆様のご要望に応じて、市の職員などが講師となって出向き、市の施策や事業について分かりやすく説明する制度です。市内に在住、在勤、在学する10人以上の団体であれば、どなたでもご利用いただけます。

メニューは87講座あり、市民生活、健康、医療、福祉、教育などに関する様々な内容の講座が用意されています。



茨城県自然博物館の協力のもと、平成22年1月に五郎助山で行われた野鳥観察会の様子。ロシアからやってきたと思われる渡り鳥「カシラダカ」をはじめ、22種類もの野鳥が見られた。

協働のまちづくり

Case 3

里山の環境保全活動
子どもも大人も集まる里山づくり

NPO法人 里山を守る会

「子どもたちが自然と触れあう場をつくりたい」。筑西市にある里山「五郎助山」と「丸山」を舞台に、平成12年に創立された「里山を守る会」。里山の環境保全活動やイベントの開催を通して、子どもたちに貴重な自然体験の場を提供し続けています。

市

民の方々が集まり、「里山を守る会」として活動を始めたきっかけは、

なくなりつつある里山を整備して、子どもたちを自然の中に呼び込もうと思ったからです。そのため、真っ先に始めたことは里山からゴミを運び出し、掃除をすることでした。以来、毎月第2土曜日を活動の日と定め、子どもたちが楽しく遊べる遊具やフィールドをつくり、鯉や鮒が泳ぐ「里山の池」などの環境を整えていきました。五郎助山には、囲炉裏を備えた山小屋「五郎助庵」を建てて会の拠点とした他、炭焼き窯も増設しました。

里山は、人が手を加えることではじめて維持できる「二次的」な自然環境です。定期的な雑木林の伐採、下草刈り、落ち葉集め、植林といった地道な作業が欠かせません。決して楽な仕事ではありませんが、一汗かいた後、仲間たちと囲炉裏を囲んで手作りの昼食



作業の合間の「守る会」の皆さん。同会は現在、会員112人、賛助会員98人を数える。

を食べるのが、何よりの楽しみとなっています。「守る会」では、子どもたちの自然体験の場として、年間を通して自然観察会やキャンプ、お月見会、農業体験などのイベントを開催しています。そのような活動が実を結び、大勢の子どもたちが里山を訪れるようになりました。子どもたちが屋外で遊ぶなくなったと言われて久しい現代。子どもたちの性質は昔とは変わってしまったのでしょうか。「守る会」理事長の中川行夫さんは、「子どもは昔も変わらな



理事長の中川行夫さん。「里山は人を呼び寄せる不思議な力を持っているんです。」

たちで工夫して見つけるそうです。「里山で活発に遊べば、転んで怪我をするようなこともあります。ですが、そのように自らの体で痛さを知る経験をする事で、他の人の痛みを理解し、思いやれるようになるのでは」と中川さん。自然の中で虫を観察して、小さくてもそこに命の営みがあることを知る。そこから、生命の尊さを実感として学ぶことができる。自然を通して得た豊かな体験は、子どもたちの心の栄養となつて堆積し、いつか目に見えない形で現れてくるのではないのでしょうか。里山では会員のみさんと子どもたちの異世代交流も盛んです。「おじいさんと話す機会が少ない子どももいますよね。里山に来て、囲炉裏にあたりながら、年配の人と話をします。知らないおじいさんでも、ここに来ると自然とうち解けて、仲良くなるんです」と中川さん。

日本において、古来より人の暮らしと自然の境界にあって、両者をつなぐ役割を担ってきた里山。現代では、世代を超えて人と人をつなぐ役割をも果たしていると言えそうです。

協働のまちづくり

Case 2

明野新能の主催
日本の伝統文化が根付くまちづくり

明野新能実行委員会

平成21年4月に16回目の公演を行った明野新能は、「地域に文化を根付かせたい」と願う地元の有志の皆さんによって創業・運営されています。費用のほとんどを能舞台の出張制作で賄い、初回公演から入場料をとらない方針を貫いています。

春

満開になった桜の下に、手

作りの能舞台が組み立てられます。薄闇の中にたいまつが灯り、舞台では能楽師が幽玄の世界を表現しています。外の舞台でなくては出会えない、幻想的な世界がそこに広がっています。

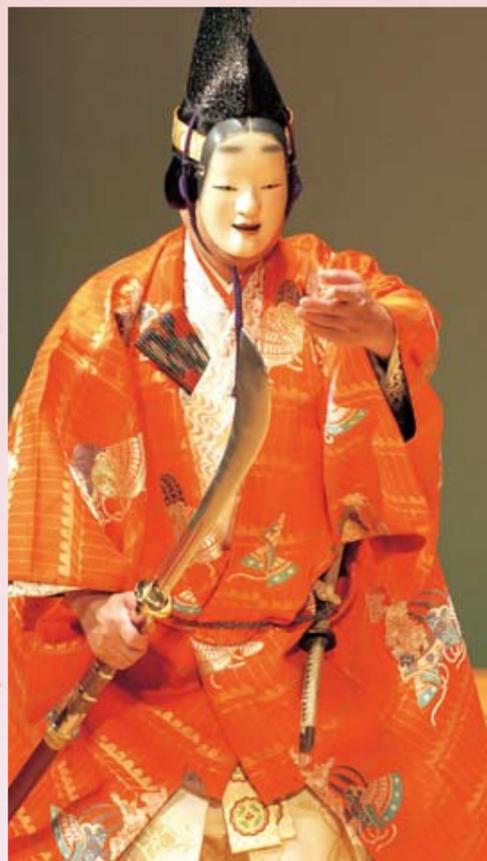
「日本古来の伝統文化である能楽を、地元の文化として根付かせたい。もっと市民が芸術に直接触れる機会を作りたい」と有志が集まり、平成4年から「明野新能」の活動が始まりました。実行委員会会長を務めるのは古田部光文さん。最初はこんなに続くとは思っていなかったそうです。毎年空を見上げて天候が崩れないように願い、天候不順で屋内開催の年もありました。けれど、大倉流大倉正之助さんをはじめ演者のみ



(上)屋外での新能の様子。満開の桜が舞台装置。(中)舞台設置の様子。(下)第16回公演では、地元の子どもたちが小舞や狂言を演じ、会場から暖かい拍手が贈られた。



実行委員会会長を務める古田部光文さん。「まちづくりは人づくり。新しい仲間を募集しています。」



満員の観客が、当代一流の演者による能・狂言の魅力を堪能。

2

豊かさを育む産業と観光のまちづくり

全国有数の農業都市である筑西市には、筑波山を望む雄大な自然・田園環境と美しい景観があり、そこで育まれてきた豊かな歴史・文化や産業があります。本市では、これら豊富な地域資源を基盤として、都市と農村との交流の推進、農業を軸とした産業の連携、観光の振興を推進することで、地域の豊かさにつながる産業づくりに取り組んでいます。

筑西の歳時記

春夏

筑波山を望む雄大な自然のもと、いにしへの昔から受け継がれている伝統を重んじた行事が各地で開催されます。夏、人々の熱い思いが開放される「まつり」。その興奮と迫力は、忘れられない思い出のひとつとなり、未来を担う子ども達へと受け継がれていきます。

「地域に文化を根付かせたい」と願う市民ボランティアが主体となり、当代一流の音楽師・狂言師を招聘して行われています。費用の大半を、能舞台の出張製作でまかない、初回公演から入場料をとらない方針を貫いています。



4月

明野薪能 (あけのたぎのこ)



8月 どすこいペア

特産品である「梨」の収穫を祝って行われていた「梨相撲」にちなんだ祭りです。昼間は当代の人気力士を招き、ちびっこ相撲等の催し物。日が落ちてからは、盆踊りやお神輿・お囃子で夏の夜を盛り上げます。「どすこい」は相撲の掛け声、ペア (PEAR) は英語で梨の意味です。



筑西最大の夏の風物詩「祇園祭」の迫力とエネルギーは圧巻です。最終日には夜を明かした大みこしが雄々しく勇壮に、動行川に入って川渡御を行い、羽黒神社にお宮入ります。



8月

灯ろう流し

漆黒の動行の清流に浮かぶ万霊供養塔の大灯。夕闇せまる頃、次々に灯ろうが市民の手を離れ静かに流れていきます。



8月

川島花火大会

鬼怒川河畔で打ち上げられる約三千数発の花火は真夏の夜を飾る風物詩です。



8月 下館祇園祭り (しもだてぎおんまつり)

2日間にわたって、延べ6,000人が、特設のやぐらを囲んで「下館音頭」「下館おどり」「笠抜きおどり」を繰り返し踊り、夏の一時を満喫します。



8月

盆踊り大会

ひまわりの里 (宮山地区) で開催されるイベントです。ひまわりの里では100万本の八重ひまわりが育てられており、あたり一面を埋め尽くすその光景は壮観です。



8月 ひまわりフェスティバル

10月~11月 鮭の遡上



動行川では、川岸や橋の上から、遡上する魚影や産卵の様子を手軽に見ることが出来ます。市街地で遡上する鮭の姿が見られるのは、非常に珍しいことです。

秋冬

10月 下館薪能(しもだてたぎのう)

作物の豊穡、鮭が帰ってくる動行川の澄んだ水面。筑西市の自然が、そこに生きる市民の文化創造の背景となり、様々な交流が生まれています。自然・歴史・文化などの資源を活かした各種イベントには、市外からの観光客も訪れ、たくさんの方で賑わいます。



下館薪能は、平成元年に旧下館市の市制施行35周年記念事業として、茨城県内で初めて開催されました。伊達政宗の祖縁の地、中館観音寺境内において、かがり火の炎に照らされた幽玄の世界に多くの皆様が魅了されました。本市出身の洋画家で文化勲章受章者、日本芸術院会員の森田茂先生のご尽力により、実現したものです。以後、当代一流の能楽師により毎年秋に行われています。

12月 小栗判官まつり(おぐりはんかみまつり)



JR水戸線下館駅北口にある大町通りで開かれます。通りは歩行者天国となり、高崎だるま・埼玉武州だるまを売る25軒ほどの露天商が軒を連ねる他、植木の苗などの販売も行われ、多くの人々に賑わいます。



1月 だるま市

平成元年から始まった祭りは、小栗判官伝説を再現し、さらにまちの活性化を図るため、毎年十二月の第一日曜日に行われます。会場では、商工祭や歌のステージ、体験コーナーや模擬店が催され、毎年二万人を超える観客でにぎわいます。祭りのハイライトは華麗な戦国絵巻を思わせる武者行列。馬にまたがった小栗判官は、照手姫はじめ侍女、判官十勇士、子ども武者など一行三百人余りを引き連れ、JR新治駅前通りを練り歩きます。また、行列には小栗太々神楽や知行八木節踊りなどの伝統芸能や御輿、勇壮な常陸の国ふるさと太鼓も参加し、祭りを盛り上げます。沿道は多くの見物客で埋め尽され、祭りは最高潮に達します。

11月

小栗内外大神宮太々神楽(おぐりないげだいじんさだだいかき)



寛延4年(1751)山城国愛宕郡三嶋神宮宮司により内外大神宮宮司に伝授されました。勇壮な舞と融和的な舞とで構成され、内容は神々の功績をたたえ、平穏な自然と作物の豊穡を祈り、悪を払い幸福を祈願する神楽です。毎年、春4月21日、秋11月10日(ともに直前の日曜日)の神社の例大祭に境内の神楽殿において神楽舞が奉納されます。

下館駅発 SLの旅



古き良き 時代を訪ねて。

休日の朝10時37分、下館駅。真岡鐵道のホームは、家族や友達との蒸気機関車の旅を心待ちにする人々で賑わっています。ホームに停車中の機関車では、機関士たちが黙々とボイラーに石炭をくべて、発車の準備に余念がありません。円筒から吹き出される煙は力強く天に向かって吹き上がり、乗客たちが募らせている期待感を更に煽っているかのようです。

真岡鐵道は平成6年3月に、24年ぶりにSLの運行を再開し、今年で16年になります。たくさんSLファンに愛され、乗客数は延べ62万人を越えま



した。

待ちかねた乗車の合図。ほのかな煙の薫りを感じながらボックス席につけば、旅の気分も高揚してきます。やがて高らかに汽笛が鳴り、車輪から真つ白な蒸気を噴出しながら「ガタンゴトン」と機関車が走り出すと、客車は歓声で沸き返ります。線路沿いの道路や踏切では、SLを一目見ようと集まった人たちが手を振ってくれており、ベストショットを撮影しようとカメラを構えている人も多く見られます。ほどなく景色は、筑波山を背景に田んぼと畑が連なる田園風景になり、乗客はSLが活躍していた昭和初期へとタイムスリップしていきます。下館駅は、旅人の夢を乗せて、現在から古き良き時代へ時間を遡る旅の始発駅でもあるのです。

SLに揺られながら、物質的には貧しくても、人と人のつながりが強く人情味に溢れた時代の「心の豊かさ」に思いを馳せる。無骨だけれど力強い、そしてなんとも温かい、そんな蒸気機関車に、あなたも乗ってみてはいかがでしょうか。

Engineer's Voice



坂場雄介さん
昭和47年生まれ
機関士 (運転指令、列車運行管理)
平成5年4月入社

技術系の仕事がしたいと、病院事務から機関士へ転身した坂場さん。機関士になるには国家資格が必要で、機関車の運転から始め、経験を積みなければ取得出来ません。努力が実り、初めてSLを運転した時は、「単純なんです、男に生まれて良かった」と思っただけです。「大きな物を動かしていたそうなんです。SLは全ての操作が手動ですから、加速の仕方、ブレーキのかけ方など、自分の感覚で動かすことが出来るんです。石炭のくべ方ひとつで、動きが変わることもあるのだとか。



外口泰士さん
昭和58年生まれ
機関士
平成14年4月入社

外口さんは高校卒業後、真岡鐵道に入社。小学生の頃から真岡鐵道にSLが走っているのを見て憧れていたそうです。入社後は気動車の運転士から始め、ボイラー技術免許を取り、機関助士になりました。現在は石炭と水を管理して蒸気圧を上げる仕事をしています。石炭のくべ方は、季節・天候・石炭の状態によって、一日一日違ってくるので、的確な技術と経験が必要な仕事です。夏は70℃を超える暑さになり、仕事は体力勝負。体調管理には気を付けているそうです。「苦労もありますが、乗客の安全を預かる重要な仕事ですから、やり甲斐がありますね。これからも経験を積んで、頑張ります。皆さんもどうぞ、SLを体験しに来て下さい」と外口さん。

単純なんです、男に生まれて良かった。

SL運行日：土曜日・日曜日・祝日に1往復運行（春・夏休みの特別期間運行あり）
乗車案内：SLに乗車するには普通乗車券のほかに「SL整理券」が必要です。
料金：大人（中学生以上）500円 小人（小学生）250円
（※座席指定ではありません。）

SL整理券販売所
JR 東日本みどりの窓口、びゅうプラザ、真岡鐵道真岡駅、久下田駅、益子駅、茂木駅
お問い合わせ：真岡鐵道真岡駅 0285-84-2911

SL車両データ

(C1266)

C12型は昭和7年から昭和22年までに300両近く製造。真岡鐵道で運行されているC1266号は、昭和8年12月に製造されたもの。全長11,350mm 動輪3輪の直径1,400mm

(C11325)

C11型は昭和7年から昭和20年までに381両を製造。真岡鐵道で運行されているC11325号は、昭和21年3月に製造されたもの。全長12,650mm 動輪3輪の直径1,520mm

見どころ探訪

芸術・文化探訪



アルテリオ（しもだて地域交流センター）・しもだて美術館

アルテリオは筑西市中心市街地のランドマーク的存在で、様々な市民活動の拠点として活用されています。大きな空中展示プロムナードからは、筑波山の山並みを望むこともできます。

しもだて美術館はアルテリオの3階にあります。板谷波山や森田茂をはじめとする郷土ゆかりの作家による作品の収蔵・展示を核として、筑西市オリジナルの文化継承と再発見、さらには新たな地域文化の創造に貢献しています。



板谷波山記念館

日本陶芸界の巨匠であり、陶芸家として初めて文化勲章を受章した板谷波山の足跡を伝える記念館として、昭和55年、生家敷地内に開館しました。波山の生家が県指定文化財として保存されている他、窯を移築し工房の様子を再現。展示館では、波山の作品やゆかりの品を見ることが出来ます。

アグリショップ夢開城

関城梨選果場の前に位置し、季節には地元産の梨は勿論、一年を通して新鮮な野菜などが販売されています。TEL 0296-37-1020

せきじょう味覚センター・ペアショップ

国道294号沿いにあり、梨・野菜は勿論、「にらうどん」など、関城地区の味覚を販売。店内にはそば処も併設されています。TEL 0296-37-4101



協和サッカー場

夜間設備も兼ね備えた本格的なサッカー場。芝生広場や多目的グラウンドも併設され、誰でも気軽に利用可能です。

あけの元気館

天然温泉を利用した浴室・露天風呂、多彩な機能を備える温水プール、スポーツジムなど。市外の利用者にも、公の施設ならではのリーズナブルな料金で提供しています。

筑西遊湯館

環境センターでのゴミの焼却から発生する余熱を有効に利用した温浴施設。様々な種類のプールや入浴施設、トレーニングルーム等、充実した設備を誇っています。



真岡鐵道SL

真っ黒い車体、大きな動輪、息をつくような蒸気の音、すべてに力強さを感じるSL。真岡鐵道にSLが復活したのは、平成6年3月。年間を通して土・日・祝日と、春・夏休みの特別期間に運行されています。



味覚探訪



あけのアグリショップ

宮山ふるさとふれあい公園内にある、花と緑に囲まれた農産物直売所です。その日地元で採れた野菜や果物の新鮮さが人気。そば処も併設され、石臼びきの手打ちそばも味わえます。TEL 0296-52-6052

協和の社公園

久地楽地区に立地する公園。体育館も隣接され、地域の住民のやすらぎと健康づくりの施設となっています。

動行川サイクリングコース

中館地区の市街地を流れる動行川左岸の堤防は、サイクリングロードとして整備されており、市民の憩いの場となっています。仙在橋から県境の桂橋まで約6kmのコースです。水辺公園には季節の花々が咲き、桜堤の桜、右岸のアジサイは見物です。

下館総合体育館

1500人収容可能な観客席を備えたメインアリーナをはじめ、サブアリーナ、トレーニングルーム、幼児室があります。規模と内容は県内でもトップクラスです。



運動・行楽施設探訪



宮山ふるさとふれあい公園

明野の豊かな自然を思いきり楽しめるアウトドアスポーツとクラフトの施設。バーベキュー設備、キャンプ場、水遊びのジャブジャブ池、わんぱく岩、健康遊具、陶芸工房など多彩な施設が勢揃い。自然のままのどんぐりの林、歴史のロマンに満ちた宮山石倉遺跡もあり、遊び方はお好み次第です。

県西総合公園

55.7ヘクタールの敷地を有する広大な公園です。赤松林・落葉・紅葉樹林の自然を残し、雄大な筑波山の眺めを楽しむことができます。園内にはサッカー場、テニスコート、人工沼などが整備されています。



船玉古墳

県指定文化財（史跡）／古墳時代末期

鬼怒川左岸の河岸段丘上に立地し、現在は墳丘上に船玉神社が鎮座しています。この神社の参道、石段脇に横穴式石室が南面して開口しています。横穴式石室の全長は約11.5m。雲母片岩の板石は県下最大規模の巨石が用いられています。



伊佐城跡

県指定文化財（史跡）／南北朝時代

伊佐城は、下館駅より北へ約2km、東は動行川に接し、西は一面の水田が開ける中館の台地に築られました。現在の観音寺境内が二の丸跡といわれ、城跡の面影は動行川崖に残っています。

久下田城跡

県指定文化財（史跡）／戦国時代

久下田城跡は、下館駅を北へ5km、栃木県二宮町に接した樋口字城山一帯で、往時は二宮町の台地を含み規模が大きかったようです。現在は山王台に、城跡公園（二の丸）、空濠があり、22,647㎡が指定されています。



母子島遊水地の桜

筑波山ベストビューコンテストで最優秀ビューポイントに選ばれた母子島遊水地。水面を囲む桜の向こうに、3つの峰が連続する美しい筑波山を望むことができます。



延命寺のしだれ桜

延命寺の境内には樹齢300年を超えるしだれ桜があり、開花の季節には老若男女が参拝に訪れ、賑やかにお茶会などを楽しみます。

明野公民館の桜

明野公民館敷地に植えられた桜は、昭和26年、当時の中学生によって卒業記念として植樹されたもの。開花の時期には、美しい桜の下で「桜まつり」「新能」「お花見国際交流会」など多くの催しが行われます。



動行川の桜つづみ

動行川左岸のサイクリングロードを彩る約200本の桜。春には、満開となった桜がサイクリングや散歩に訪れる人の目を楽しませてくれます。

観音院のしだれ桜

本堂は文久2年（1862）の再建で、市指定文化財。境内の2本のしだれ桜は本堂再建時に植えられたと伝えられており、その妖艶な美しさで訪れる人を魅了します。



新治郡衙跡

国指定文化財（史跡）／奈良時代

常陸国新治郡に設置された地方行政機関の郡役所と倉庫跡。考古学の調査で、文献記載記事を立証することができた先駆的で稀有な遺跡として著名です。

荒川家住宅

国登録有形文化財／明治時代ほか

筑西市田町の国道50号線沿いに南面して店蔵と洋館が建っています。現在は酒店を営んでいますが、かつては醤油の醸造業を営んでいました。明治期の商店の様子を伝える貴重な建物であり、母屋・店蔵・付属屋・内蔵・石蔵はいずれも丁寧な造りで、それぞれ国登録有形文化財に指定されています。



羽黒神社

県指定文化財（建造物）／江戸時代

羽黒神社は、文明13年（1481）下館城主の水谷家初代勝氏が、領内安堵のため日ごろ尊崇する出羽国（山形県）羽黒大神を勧請したもので、現在の本殿は、櫺一部檜材彩色一間社流造で桃山風の建築様式を備えています。

上羽黒神社

県指定文化財（建造物）／江戸時代

本殿は、一間社流造で、茅葺を鉄板で覆っています。すべて檜材を用い、木割が太く、江戸時代初期の時代色をよく残しています。拝殿も本殿と同時代の建築で、時代の特徴を建物全体から見てとれます。



中館のコスモス畑

中館地区の畑7千㎡（国道50号バイパスと国道294号線が交差する南側）にコスモスが咲き誇ります。土、日曜日にはコスモス畑の側をSLが煙を吐き走ります。コスモスは「市秋の花」にも制定されている、筑西市を代表する花の一つです。見ごろは9月中旬から10月いっぱいまで。

さわやかロードの桜と芝桜

関城地区西原に整備されている約5キロのウォーキングコース「さわやかロード」。この道沿いには、市民ボランティアが守り育てている芝桜やハナミズキの花が咲きほこり、散歩やジョギングをする人たちの目を楽しませています。



小栗内外大神宮

国指定重要文化財（建造物）

両本殿 延宝7年・御遷殿 天正2年

内外大神宮は小栗北部の丘陵地に建ち、中世には伊勢神宮領の小栗御厨であった地域に鎮座しています。内宮・外宮の両本殿は、延宝7年（1679年）に建立されました。本来の神社本殿の姿をとどめたとみられる神明造づくりで、同建築様式の遺存例は全国でも少なく、大変貴重です。また、本殿2棟を並列させる社殿形式としては最古で、近世の社殿構成を伝える上でも大変価値がある建造物です。

新治廃寺跡

国指定文化財（史跡）／奈良時代

奈良時代、律令制のもとで常陸国新治郡に造られた寺院跡で、古くから4基の土壇跡と多くの古瓦の出土が知られていました。出土した古瓦の豊富さと共に文字瓦も見られ、奈良時代の東国への仏教文化の伝播を知る遺跡です。

花の名所探訪



明野ひまわりの里

毎年8月、宮山ふるさとふれあい公園に隣接する「明野ひまわりの里」では、「ひまわりフェスティバル」が開催されます。4.4ヘクタールの会場には、実行委員会が育てた100万本の東北八重ひまわりと20万本の黄花コスモスが咲き誇り、訪れた人々を楽しませます。



歴史探訪

関城跡

国指定文化財（史跡）／鎌倉～南北朝時代

南北朝時代の戦乱の舞台となった関城跡は、筑西市の南端にあります。東・南・西の三方が大沼に囲まれており、台地続きの北部には数重の土塁と堀割をめぐらせて、天然の要害地とした城郭です。

関城跡には、関宗祐父子の墓と伝えられる宝篋印塔の他、坑道跡や土塁、堀も残され往時を偲ぶことができます。

筑西市と縁の深い伝説上の武士・小栗判官。

説話節や浄瑠璃、歌舞伎などで親しまれています。

芽吹き、そして大樹へと。

食を支える農業への関心が高まり、都市と農村の交流が盛んに行われる昨今。農業都市として長い歴史を持つ筑西市では、これまでに蓄積されてきた農の環境をもとに、新たな交流を育み、地域の豊かさにつながる産業づくりに取り組んでいます。芽を出した小さな命が、やがて枝を広げ大きな木となるように、各分野で筑西市の産業を支えている方々をご紹介します。



筑波山の裾野に広がる広大な平野と、数本の一級河川を有する筑西市は、豊かな大地と水に恵まれ、新鮮な味覚の宝庫です。関東屈指の米処としてコシヒカリを中心に栽培が行われている他、梨・こだますいか・常陸秋そば等、多くの特産品があり、その品質はいずれも全国的に高い評価を得ています。

特産品

コシヒカリ



県内有数の産地。筑西の豊かな米文化の源ともなっている。

梨



厳しい品質管理と伝統の栽培技術による一級品。

こだますいか



甘さとシャリ感が、他産地のものとは一味違うと評判。

常陸秋そば



筑西のそばは、香り・風味が良く、甘みが強いのが特徴。

きゅうり



銘柄産地の指定を受けており、味と品質は折り紙付き。

トマト



大玉で糖度が高く、美しいトマトとして人気が高い。

いちご



たっぷりの甘みと酸味が魅力。12月～5月にかけて味わえる。

地酒



筑西産の米や手を使用し、昔ながらの製法で仕込んだ銘酒。

醤油



無添加の本醸造醤油は、味・香りともに絶品。

味噌



筑西市で生産した原料を用い、無添加で手造りした健康食品。

和菓子



下館地区市街地には、文人達に愛された銘菓の老舗が数多い。

桐下駄



足にしっかりと馴染む履き心地は、細やかな手仕事の賜。

農業 [1]

米・そば栽培

日本各地にファンのいる米、そばを作りたい。

米そば生産農家 **川田誠一** さん

Seiichi Kawada



MEMO

品目：米、そば、小麦、大豆
品種：コシヒカリ・五百万石・常陸秋そば
面積：米2200a・そば2200a・大豆1700a・小麦3500a

薫、糠、鶏糞などの有機物を使い、安心して食べられる農産物づくりをしている。

筑 波山のすそ野に広がる広々とした平野と、市内を流れる幾筋もの河川に恵まれた筑西市は、県内でも有数の米処として知られています。川田誠一さんは、コシヒカリと、酒米を栽培しています。安全でおいしい米作りは土づくりから。糞や鶏糞などの有機物を使った農法で食の安全に気を付けています。

酒米づくりでは、川田さんを始め5人のメンバーが、米福酒造の契約農家として「五百万石」を栽培。「筑西」という名のお酒も生まれました。また筑西市は常陸秋そばの生産量が多く、香り・風味・甘味が良いそばが作られています。県内はもとより、青森から大坂まで広く販売され、ガイドブック掲載の人気蕎麦店でも使われています。川田さんの畑ではおよそ10年前からそばの栽培を始めました。「十割そばの場合、原料の味がはっきりと茹で上がったそばの味となる。味にこまかしくはききません。有機栽培で育てた自分のそばが、有名店の店主に気に入

ら大坂まで広く販売され、ガイドブック掲載の人気蕎麦店でも使われています。川田さんの畑ではおよそ10年前からそばの栽培を始めました。「十割そばの場合、原料の味がはっきりと茹で上がったそばの味となる。味にこまかしくはききません。有機栽培で育てた自分のそばが、有名店の店主に気に入

とつにし、生産性を上げる試みです。「今後益々、農作物の国内生産が大切になってきます。コストの削減法を考え、経験や学習の中から自分のやり方を探していくことが大事です」。後継者の問題もある中、どう自給率を上げていくか。安全で安心な国産の米やそばを普及させていきたいと川田さん。

筑

西市の南西部に位置する地域のひとつで、戦前より作られています。日光おろしの風が吹き、夏の寒暖の差の激しさが栽培に適しており、国内有数の作付け面積を誇る日本梨の産地になっています。また、減農薬栽培と厳しい選果、受け継がれてきた伝統の

栽培法で、県の銘柄産地にも指定されています。夏から秋にかけてが梨のベストシーズン。お盆の頃にピークを迎えます。品種は「幸水」「豊水」を始め、「あきづき」「新高」などを栽培し、主に京浜地区に出荷をしています。梨栽培の菊池良信さんは、この仕事を始めて25年ほどになります。子供の

頃から梨の世話をする親の姿を見て育ちました。日本梨は旬が短く、ハウス栽培の梨が7月に市場に出回り、一番摘果の遅い「新高」が10月中旬で終了するまで、およそ4ヶ月間が出荷の時期です。その季節に甘くて大きい梨を収穫するため、生産者は一年を通し丹精込めて木の面倒をみています。

直売所で、お客様から「昨年買って美味しかったから、また買いに来たい」と言われることも多く、それが励みになっています。ギフト用としても喜ばれており、「今年も送って」と催促が来るそう。「産地消」でもっと直売所を増やしていきたいそうです。美味しい梨の見分け方は、形が丸く整って大きいこと。「他の果物は違いますが、梨は大きければ大きい程美味しい。梨は水分が多く利尿・解熱作用があり風邪に良いとされています。また虫歯になりにくく、昔は梨を食べて歯医者いらさずと

農業 [2]

梨栽培

毎年心待ちにしてくれているお客様のために。

梨生産農家

菊池良信 さん

Yoshinobu Kikuchi



MEMO

品目：梨を中心に、米、生姜、野菜を栽培
品種：幸水・豊水・あきづき・新高
面積：梨130a・米200a・生姜10a

高い品質を追求しながら、PR活動にも力を入れて、筑西の梨を広く知らせていきたい。

整って大きいこと。「他の果物は違いますが、梨は大きければ大きい程美味しい。梨は水分が多く利尿・解熱作用があり風邪に良いとされています。また虫歯になりにくく、昔は梨を食べて歯医者いらさずと

商業

下館商工会議所

地域に夢を！ 企業に繁栄を！
地域の皆様と共に歩んでいきたい。

関 正夫 さん

Masao Seki

下館商工会議所会頭・関彰商事(株)会長



JR水戸線下館駅北口スピカビルからの眺望。

下館商工会議所は昭和30年に創立し、以来、地域の総合経済団体として、地元商工業の振興と地域発展のため、地域に根ざした活動を続けてきました。現会頭の関正夫さんは昭和50年に会頭に就任しました。折しも高度経済成長の真っ只中。激変する環境に於いて地域商工業の近代化が求められた時代でした。その後、大型店の進出が相次ぎ、地元商店街に深刻な影響を与えた時もありましたが、商工業者の要望に応じるべく、各種の事業に努力を重ね、行政へまちづくりの提言活

動もしてきました。市町村合併により新しい都市「筑西市」が誕生したことで、関さんは「地域格差が拡大していく時代にあつて、地域経済を好転させていくためには、大きなビジョンを持つて、常に変革をしていく必要があるんです。これからは商工会議所も広く考えれば、福祉・教育といった分野にも配慮する必要があります。また、生活しやすい、買い物しやすい地域を作るなど、お客様のニーズを中心に考えた住みやすいまちづくりを心がけることが必要です」と力説します。下館駅北側は、稲荷町線の道路拡幅事業やシビックコア地区（アルテリオ、国の合同庁舎）事業が完成し、きれいに街並みが整備されました。「中心市街地にふさわしい、地

PROFILE

昭和8年2月生まれ。昭和39年、関彰商事株式会社の代表取締役社長に就任、同社を北関東有数の総合商社に育て上げる。平成5年より同社社長。石油製品の販売を中心に、住宅関連、自動車関連、IT関連など、地域に根ざした様々な事業を展開している。全国石油商業組合連合会会長、茨城県社会福祉協議会会長、茨城県経営者協会会長などの公職にも従事。平成10年に旭日重光章を受章。



農業 [3]

こだますいか栽培

日本一の産地を、これからも守っていきたい。

こだますいか生産農家 下条藤夫 さん

Fuji Shimoyou



MEMO

品目: こだますいか
品種: サマーキッズを中心に、ひとりじめ7、愛娘などを栽培
面積: 50m ハウス 24本
交配時期: 1月下旬から3月頃
出荷時期: 5月より

天候に気を配り、消費者を裏切らないように味を吟味しながら栽培している。

のバランスを整えることや、有機質の肥料を使うといった「土づくり」が大切とのこと。それぞれの農家が同じレベルで生産出来ることも重要で、JA北つくばの指導を受けたり、講習会に参加して情報交換したり、産地の質を上げる努力をしています。また、消費を伸ばす工夫として、地元の生産者やJA北つくば、農業改良普及センターなどでつくる「こだますいか産地活性化検討委員会」の女性のみなさんが中心となり、すいかシャベットアイスを作り販売したところ、大変好評を博したそうです。

筑

西は国内でも有数のこだますいかの産地で、県の銘柄産地指定を受けています。シャリ質が強く糖度が高いため、筑西のすいかは一味違うと消費者にも好評です。

冷蔵庫にもスッポリ入る大きさが喜ばれ、消費量を伸ばしてきたこだますいかは、昭和30年代から栽培が始まり、

最初は色が黄色いものが主流でした。下条藤夫さんの家ではおよそ50年、先代から受け継いだ畑でこだますいかを作っています。下条さんの畑がある下

星谷地区は、筑西の中でも古くからの生産地。日照時間が長く、土壌が適しており、朝夕の寒暖の差があるなどの条件が、美味しいこだますいかを育て

るのに適していたのではと下条さんは語ります。

生産者として気をつけていることは「安心・安全」はもちろんのこと、「消費者を裏切らず、1回買った方が、また食べた」と思ってくれるこだますいかを作ることです。そのため、土

作付けする前に土壌の検査をして、土

カ

1ネーションからバラに転作し26年、家族で力を合わせて、1400坪のハウスに約15品種のバラを作っている莊秀夫さん。平成3年からは水耕栽培を始め、連作障害もなく通年を通してバラを作ることができるようになりました。また、品質を重視しながらも、環境に優しいバラ作りを

したいと、茨城県内では初の環境認証MPSを取得。農薬の削減は残留農薬の軽減に、肥料の削減は連作障害や地下水汚染の軽減につながっています。バラにも流行があり、1年先2年先を見て、生産者はその時代に求められるバラを作らなければなりません。川の流れるように変わっていく時代を見

極めるプロの目が必要と莊さん。そのためにはイベントに参加して情報交換をしたり、市場から情報を得たり、人とのつながりを大切に考えています。また、花きの出荷はタイミングが肝心。バラが消費者の手に届いた時にちゃんと花が咲いて、満足してもらえるバラを作っていきたいと莊さん。

MPS認証とは？
MPS（花き産業総合認証）とは、環境や品質及び社会的責任などに対する高い意識を持つ花き生産者の姿勢や取り組みを評価する認証システムです。花き生産者による生産物の環境負荷低減、鮮度・品質管理、生産から流通、販売までの過程を明確にすることや、

農業 [4]

今、求められるバラを作りたい。

莊花園（バラ切り花生産）

バラ生産農家 莊 秀夫 さん

Hideo Shou



MEMO

品目: バラ切り花生産
栽培方法: アーチング栽培（水耕栽培）
面積: 約47a
所 属: JA北つくば花き部会

環境に配慮したバラの栽培で安定供給を図っている。

企業としての社会的責任、小売業者からの要求事項等に対応した認証です。莊花園では、全ての認証を取得し、その証としてロゴマークを使用。消費者からブランドとして認知され、絶大な信頼を獲得しています。



「商工まつり」など、数々のイベントを通じて、地域の活性化を図っている。



「商工まつり」につめかけた観客。

域住民が生活しやすい、やさしい商店街を目指しています。商店街は団体競技であり、協力し合わないとい進展はないんです。商工会議所は引き続き連携しながらより良い商店街創りを支援していきます。

また、経営相談・融資相談・税務相談などの窓口となつて、地域の商工業を支援していくことも商工会議所の大切な役目です。「難しいこういう時こそ存分に我々の力を発揮すべきだと思うんです。商工会議所は地域経済の担い手であるという意識を持って、これからの地域の発展のために、地域の皆様と共に歩んでいきたいですね」と関

ファナック株式会社

筑西から世界へ。

もの作りの道を歩み、社会の発展に貢献したい。

ファナック(株)相談役名誉会長

稲葉清右衛門 さん

Seiuemon Inaba



「標の工場」と名付けられた平成元年操業開始のファナック株式会社筑波工場(つくば明野工業団地)。平成20年に操業を開始した「曙杉の工場」(つくば明野北部工業団地)とともに、筑西市の産業の振興に多大な貢献をしている。



「曙杉の工場」(つくば明野北部工業団地)。



筑西市文化祭で展示されたサッカーロボット。

産業用ロボットメーカーとして、世界のシェアを誇るファナック(株)の相談役名誉会長を務める稲葉清右衛門さんは、筑西市向上野出身。昭和21年に東京帝国大学(東京大学)第二工学部精密工学科を卒業後、富士通株式会社に入社しました。富士通では技術者として研究開発に携わり、民間では日本初のNC(数値制御方式)工作機械を開発。昭和40年には、東京工業大学で博士号(工学)を取得されました。昭和47年に富士通(株)の計算制御部門が独立してファナック(株)が設立さ

れ、同部門の責任者だった稲葉さんが専務取締役に就任。昭和50年には代表取締役社長に就任し、産業用ロボットとFA(自動制御システム)の分野で他の追随を許さない世界トップメーカーとしての地位を築き上げました。同社の筑波工場は、つくば明野工業団地(向上野)と、つくば明野北部工業団地(松原)にあり、イメージカラーである鮮やかな黄色の建物、豊かな自然と美しく調和しています。工場内では、主力商品である「ロボドリル」ロボットが生産されています。

平成18年の筑西市文化祭では、同社から視覚と知能を併せ持ち、自立して動くサッカーロボットが特別展示されました。サッカーシューズを履いた黄色いロボットが、緑の

フィールドに置かれたサッカーボールを自分の目で確かめ、鮮やかなインサイドキックでゴールを決めるや、その喜びをダンスで表現。最先端の技術を間近で見た子ども達は、きらきらと目を輝かせていました。稲葉さんは「筑波山の麓、豊かな自然が残る筑西の地から、我が社の製品を世界に送り出すことができること、そして、郷里筑西市の発展に少しでも貢献できることを大変うれしく思います。これからも、もの作りという道を変わらず歩みながら、社会の発展のために貢献していきたい」とコメントを寄せてくれました。

PROFILE
工学博士。大正14年3月生まれ。昭和21年、東京大学第二工学部精密工学科を卒業。同年富士通通信機製造(現富士通)に入社。47年、富士通ファナック(現ファナック)設立と同時に同社専務に就任。49年副社長を経て、50年社長に就任。同社を世界一の産業用ロボットメーカーに育て上げた。平成7年同社社長に就任。同年勲二等瑞宝章を受章。12年より現職。17年筑西市名誉市民。

三代目の猪ノ原武史さん(左)と、二代目の猪ノ原昭廣さん。桐材の伐採、製材、輪積み乾燥、糸鋸による組みはがし作業、鼻回し、ダボ入れ、穴開け、艶出しミガキなどの工程を経て、鼻緒スゲ作業で完成する。写真は手作業による仕上げ作業。



皇室天覧品として献上した、真竹張りの逸品。



希少山ぶどうのつるを編んだオリジナル。

茨 城が桐下駄の産地日本一ということをご存じでしょうか。特に筑西市をはじめとする県西部地区は、昔から桐下駄作りが盛んな地域でした。

猪ノ原桐材木工所(関本上)は昭和26年に創業、桐の原木伐採から鼻緒仕上げ仕上げまで、全工程を自社で取り扱う関東では唯一の木工所です。現在は、二代目猪ノ原昭廣さんと、息子さんで三代目の猪ノ原武史さんを中心に作業をされています。

「伝統を維持するには、ただ守って

桐下駄職人

猪ノ原昭廣 さん

Akihiro Inohara



PROFILE
昭和26年創業。昭和51年に和装履大手メーカーの修業を終えて、家業を継ぐ。「明治神宮大祭」に桐下駄を奉納し「明治神宮献上品」として感謝状を頂く。天皇皇后両陛下が茨城県公式訪問の際は皇室天覧品として桐下駄を出品するなど、その品質は皇室からも認められている。「茨城県郷土工芸品」(知事指定)第16号に指定、知事より認定証を受け取る。

いるだけでは駄目です」と語る猪ノ原さんが作るのは、伝統的な桐下駄にとどまりません。現代のカジュアルなものや、ユーザーの健康を考えて機能性を高めたものなど、用途によって様々な桐下駄を考案し、商品化しています。その反響は大きく、「履き心地が良かった」「自分にぴったりの下駄が見つかった」と全国から感謝の言葉が届いているそうです。

最近では、なかなか手に入らない山ぶどうのつるを編みこんで作った桐下駄が好評とのこと。「オリジナルの下駄作りは、下駄の観点からだけでは限界があり、靴やファッション雑誌から研究したり、足に馴染む曲線を追求したりと、試行錯誤しながら作って

いきます。作っている時は夢中ですが(笑)。それでも、納得のいかない場合もあり、職人の仕事にこれで終わりということはない、いつまでも向上心を持ち続けたいと話してくれました。天皇皇后両陛下が茨城県を公式訪問された際には皇室天覧品として真竹張りの桐下駄を献上、また「茨城県郷土工芸品」として各地で実演をしながら普及に努めています。「筑西は人情味のある所。のんびりおっとりしているのが良いのですね。旅行がてら工房を訪ねてくれるお客さまもいるんですよ。筑西の特産品として、これからも長く桐下駄作り続けたい」と猪ノ原さん。

一桐入魂。

ひとつひとつの桐下駄に魂を込めて作り続けたい。

猪ノ原桐材木工所

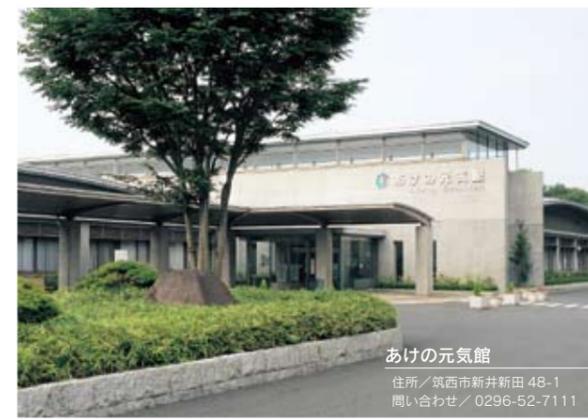
筑西市では、市民の誰もが安心して健やかな生活ができるよう、「健康増進計画」を策定し、市民の健康づくりを推進しています。また、少子高齢化が進行する現在、子育て支援・高齢者福祉・障害者福祉の重要性は日々高まっています。筑西市では、家庭や地域、行政が一体となって暮らしを支えていくまちづくりを目指し、福祉行政の更なる充実を図っています。



健康で活気あふれる未来へ。 市民の元気の源「あけの元気館」



地下1500mから湧き出す温泉を利用した療養温泉「せいめい晴明の湯」、温水プール、トレーニングルームなど、幼児から高齢者まで家族揃って健康づくりができる設備が充実した「あけの元気館」は、市民の皆さんの活力源として欠かせない存在となっています。



あけの元気館
住所／筑西市新井新田48-1
問い合わせ／0296-52-7111

療養温泉「晴明の湯」

「あゝ極楽、極楽」。温泉に浸かった瞬間の、身体がほどけていくような開放感は格別です。

地下1500m、名峰筑波山の岩盤の中から湧き出す天然の温泉を利用した療養温泉「晴明の湯」。無色透明・無臭ですが、やや塩味があり、温泉基準の7倍を越す成分が含まれています。広々とした空間に、露天風呂、内風呂、サウナが設けられており、ゆったりと入浴を楽しむことができます。

【泉質】
ナトリウム・カルシウム―塩化物泉

【効能】

〔一般適応症〕
神経痛、筋肉痛、関節炎、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え性、病後回復期、疲労回復、健康増進
〔泉質適応症〕
切り傷、火傷、虚弱児童、慢性婦人

プールエリア

1年中泳げる室内型温水プールです。幼児プール、20mプールのほか、温泉を利用したバーデゾーンを備えており、運動浴や歩行浴など水中での機能回復訓練に利用することもできます。また、子どもも大人も年齢を超えて一緒に触れ合える交流の場でもあります。

トレーニングルーム

様々な運動器具を用い、筋力アップやシェイプアップなど、それぞれの目的に合わせてトレーニングをすることができ、また、多彩なレッスンプログラムが常時実施されており、専属トレーナーが個人の健康状態や年齢・体力にあった最適な運動を指導しています。

User's Voice



斉藤安子さん

開館以来、毎日のように通っています。最初はダイエットが目的でトレーニングを始めたのですが、5年目くらいからマラソン大会に出場するようになり、今では頻りにエントリーしています。友達もたくさん出来ましたし、毎日が充実しています。



相沢庄平さん

10年程前に、ヒザを痛めた妻の付き添いで歩行浴を始めたのがきっかけで、今では私の方が熱心に通っています。毎日2時間程、プールと温泉を利用してはいますが、おかげで体調も良好で助かっています。

仲間がいるから、続けられる。

あけの元気館の充実した施設を利用して、様々なレッスンプログラムが組み立てられています。さわやかストレッチ、エアロビクス、ヨガ、ピラティス、温泉ストレッチ、水泳教室など、様々なプログラムを用意。健康になりたい、シェイプアップしたい、運動不足を解消したいなど、目的に合ったプログラムが選べます。同じ目的を持った仲間と一緒にトレーニングすることで、楽しく続ける事ができます。



レッスンプログラム



その他の施設



- リラックスルーム「森のおくりもの」
入浴や運動を楽しんだ後、リラクステアに座ってくつろげるスペースです。大画面の映像と音楽を楽しむことができます。
- 大広間「輪和話」
84畳の和室は、大勢で利用してものびのびできる広さ。入浴や運動のあとの休憩にどうぞ。
- コンディショニングルーム
専門のマッサージ師による癒しのひとときを提供します。鍼灸治療、全身もみ、部分もみ、足底療法が受けられます。
- 売店「あけのアグリショップ」
食は健康の源。地元の新鮮野菜を豊富に取り揃え、良心価格で販売しています。

家族みんなで楽しめる
リフレッシュスポットが
盛りだくさん。

Subject:

子育て支援

子育て支援対策・子ども福祉の充実



子どもは家庭や地域の温かい愛情に包まれ、健全に育てられなければなりません。本市では「次世代育成支援行動計画」に基づき、児童福祉施設の適切な配置や地域環境の充実を図ってきました。未来の筑西市を担う子どもたちが、心豊かで健康に育つことが出来るよう、家庭や地域、学校、保健施設、行政などが一体となって子育てを支援するまちづくりを目指しています。

地域ぐるみで子育てを

子育て環境を整備するために、地域ぐるみで子育てを支えるシステムづくりを進めています。具体的には保育所（園）における地域活動や、母親クラブ等の地域組織活動の活性化を図り、三世代交流や、父親の積極的な子育て参加を促進するなどの取り組みをしています。

また、核家族化の進行、働く女性の増加など、児童を取り巻く環境が変化し、ひとり親世帯も増加傾向にあります。多様化する保育需要に対応するため、保育所（園）の保育時間の拡大や、乳児保育、障害児保育、病後時保育などの取り組み、子育て支援センターの



子ども福祉の充実

家庭児童相談室の充実とともに、児童相談所等関係機関との連携のもと、悩みや不安を持つ子どもや保護者の相談体制の一層の強化を図り、母子自立支援員や民生委員・児童委員、社会福祉協議会との連携により、適切な相談指導に努めています。

子どもの健全育成については、地域ぐるみで子どもを守り、健康やかに育む環境の整備をし、増加傾向にあるひとり親世帯に対する相談、支援体制の充実を図っています。



(上) リズム体操 (下) 母親セミナー

Topic: 筑西市はぐくみ医療費支給制度



この制度の実施によって育児に關わる経済的負担を軽減し、安心して出産出来る環境づくりを目指しています。

今後の筑西市の発展のために、避けて通れないのが少子化問題です。未婚化・晩婚化の進展に加え、結婚した場合でも経済的不安から出産を控えるケースが少なからずあり、少子化の一因となっています。この制度は、そのような傾向を緩和するため、医療福祉費支給制度（マルモグラフィー）を受けられない小学校入学前の子どもや、マルモグラフィーにより助成対象疾病症が限定される妊産婦を対象に、本市が独自に定めている医療費助成制度です。

Subject:

医療

保健・医療・福祉の連携



高齢化の進行により、寝たきりや認知症など継続的に医療や介護が必要な高齢者が増加しています。加えて、核家族世帯や共働き世帯が増加し、家庭での介護力が低下していることが懸念されています。誰もが家庭や地域の中で可能な限り自立し、生き甲斐を持って生活を送る為には、保健・医療・福祉の連携のもと、地域全体で支え合う体制を確立する必要があります。

筑西市民病院の取り組み

本市では筑西市民病院を中心として地域医療の充実、救急医療体制の整備を進めています。同病院では、市民の皆さんの意見を聞くために大規模な対話集会を実施するなどして、市民一人ひとりのニーズに合ったきめ細かなサービスの提供をし、市民誰もが必要な時に適切な医療が受けられるよう、地域医療体制の充実を図っています。

夜間休日一次救急診療所

内科・小児科に関して「夜間休日一次救急診療所」を設置し、夜間や休日にも救急患者に対応できるようにしています。



(上) 筑西市民病院の外観 (下) 筑西市民病院の運営に関する対話集会の様相

乳がん撲滅のために

日本では女性の20人に1人が乳がんに罹ると言われ、死亡数も年々増加しています。早期発見に努めれば治る可能性の高い病気ですが、日本では乳がんに対する関心や知識が低く、自覚症状が出るまで診療を受けず病状を悪化させてしまう場合が少なくありません。市民病院では、この現状の打開策として、女性放射線技師による乳がん検診を実施しています。乳がん検診学会で「有効な検診方法」と認められているエックス線検査デジタルマンモグラフィと、乳房専用プローブ超音波検査（エコー）などを併用した質の高い検診を行っています。

マンモグラフィ

Topic: 筑西市民病院の先端医療



マンモグラフィ

● マルチスライスCT
人体の断面図を高速で撮影することで、全身のどの部分も撮影が出来、短時間で撮影するので、息を止める時間が短くなります。放射線被曝量が低減され、緊急患者への迅速な対応も可能です。

● 15T MRI
X線を使用せず人体の色々な断面を撮影する画像診断装置です。頭から足先まで全身の様々な部位の検査ができ、病気の広がりや程度の判定にも有用です。被曝の心配がないので安心して検査が受けられます。

● マンモグラフィ
乳房専用のX線撮影装置を使った検査です。アクリルの圧迫板で乳房を片方ずつ挟み、縦横の2方向から撮影します。乳がんの早期発見に最も有効な検査とされています。

Subject:

障害者福祉

障害者の自立を支援する体制づくり



障害者の方々が積極的に社会に参画し、住みなれた地域の一員として自立した生活を送ることができるよう、一人ひとりの状況に応じたきめ細かい支援を提供できる体制の整備・充実を図っています。また、心身障害者福祉センターを中心として障害を持つ人を地域で支えていく体制づくりを進めるとともに、公共施設等のバリアフリー化の推進や、就労機会の拡大に努めています。

障害者を支援する体制づくり

平成18年度から身体・知的・精神の障害別の福祉サービスを一元化した障害者自立支援法が施行され、障害者を取り巻く情勢が大きく変化しています。また、障害の重度化、加齢、重複化が懸念されるなか、一人ひとりの状況に応じたきめ細かな支援施策を展開し、利用者への適切な情報提供やサービスと負担のあり方について改めて検討していく必要があります。

本市では、平成12年に心身障害者福祉センターを開設し、障害を持つ方々を地域で支える体制づくりを進めるとともに、公共施設のバリアフリー化を推進してきました。



(上) 筑西市役所の玄関前に設置されているスロープ (下) 明野いきがいセンターでの就労風景

今後も、市民・地域や関係機関が連携し、年齢・能力・障害の状態など障害者一人ひとりの状況に合わせたきめ細かな教育・療育・自立支援等の施策を展開してまいります。

福祉サービスの充実と自立支援

日常生活用具・補装具の給付、バリアフリー住宅へのリフォーム支援等、障害者に必要な福祉サービスの一層の充実を図るとともに、地域自立支援協議会を中心に相談支援事業等の総合的なサービスの提供に取り組んでいます。

また、障害者の社会参加と経済的自立を支援するため、リハビリ訓練等の充実、支援団体の育成、交流イベントの開催、雇用の拡大を推進しています。

Topic: 盲導犬のパピーウォーカー 稲見暁海^{あけみ}さん



稲見暁海さん

パピーウォーカーとは、将来盲導犬になる子犬を約10か月間、家族の一員として育てるボランティアです。稲見さんは、小犬のかわいらしさに惹かれて最初の一頭を預かって以来、約25年続けており、最近では親犬を預かっていたの繁殖にも成功しました。
「慣れないうちは家の中の物を噛られてしまったりしたけど、苦労といってもそれくらいで、楽しい思い出の方が多いですね。この活動を通して仲間も増えました。」と稲見さん。盲導犬を育てるには、小犬のうちから人とふれあう機会を多くして、その楽しさを教える事が大切だそうです。
「盲導犬ユーザーは、人生を楽しむ事に積極的な方が多いんです。百キロマラソンを走ったり、海外旅行に行ったり。少しでもそのお役に立てていると思うと嬉しいですね。」

Subject:

高齢者福祉

高齢者が安心して暮らせる福祉の充実



全国的な高齢化の進行は、本市においても例外ではありません。老年人口（65歳以上）が総人口の2割を超え、老人福祉サービスの充実がますます重要な課題となっています。本市では、様々な事業により高齢者の生きがいづくりと健康づくりを支援することで、生活の質の向上・介護予防に取り組み、高齢者が住みなれた地域で健康にいきいきと暮らせるまちづくりを推進しています。

高齢者福祉の充実

本市では、高齢者の生活を社会全体で支えるしくみとして、「老人保健福祉計画・介護保険事業計画」を策定し、要支援高齢者等を対象とする新予防給付の創設、認知症高齢者に対する施策の強化、ひとり暮らし世帯や夫婦のみの世帯への支援体制の整備を進めています。

今後とも、高齢者が地域で安心して暮らしている福祉の充実を図るとともに、積極的に社会参加できる環境を整え、長年にわたり培ってきた知識や経験を活かしながら、社会の一員として生きがいをもって活躍できる地域社会を実現していく必要があります。



地域支援と在宅福祉の充実

地域包括支援センターを中心に、高齢者の介護予防事業を推進するとともに、要介護状態等になっても住み慣れた地域で自立した日常生活を行うことができるよう、総合相談事業等の地域支援事業の充実を図り、在宅介護支援センターを核とした在宅福祉サービスの充実を図っています。

生きがいづくりの推進

スポーツ・レクリエーション活動や老人クラブを通じた高齢者の健康づくり、生きがいづくりを支援するとともに、シルバー人材センターでの就労をはじめとする社会参画を推進しています。



(上) シルバー人材センターでの就労 (下) 新型特別養護老人ホーム「恒幸園」

Topic: 新型特別養護老人ホーム県内第1号「恒幸園」



恒幸園の外観

「恒幸園」（向川澄）は、茨城県内第1号となる新型特別養護老人ホームとして注目されています。
新型特別養護老人ホームとは、厚生労働省が定めたもので、全室が個室になっているのが大きな特徴です。さらに、10人以内のグループ毎にリビングや食堂、談話室を用意する「ユニットケア」により、利用者同士が「なじみの関係」を作ることができる仕組みになっています。従来型に比べて、個人のプライバシーが保護されながら、快適に家庭的な雰囲気の中で生活を送ることができるよう施設です。

現代の成熟した社会においては、物質的な豊かさだけでなく、精神面を含めた生活全体の質の向上と自己実現が求められています。筑西市では、市民の誰もが生涯を通じて学び、交流し、スポーツやレクリエーションを楽しめる環境づくりを推進するとともに、歴史・伝統文化の保全・継承・活用にも力を注ぎ、地域に根ざした文化・芸術の振興に努めています。

Subject:

生涯学習・生涯スポーツ

生活の質的向上を支援する体制づくり



ちくせいマラソン大会

毎日をいきいきと楽しむために―― 生きがいがづくり・健康づくりで人生を豊かに。



生涯学習の充実



(上)味噌づくり講座 (下)メタボ予防教室でのディスカッション

本市では、生きがいがづくりやスキルアップといった市民の学習意欲に応えられるよう、生涯学習センター、しもだて地域交流センター、各地区の公民館・図書館・美術館など、拠点となる施設や環境の充実を図っています。また、それらを利用した各種講座を開催し、市民だれもが、いつでも、どこでもいきいきと学べる多様な学習機会を提供するとともに、生涯学習ボランティアや「ちくせい市民講師」といった指導者の育成に努め、学習活動で培った成果や能力を地域社会の中で活かせる場や機会を作っています。

生涯スポーツの推進

社会構造の変化による余暇時間の増加、生活水準の上昇にともない、市民のスポーツ・レクリエーションに対するニーズはますます高まっています。また、運動不足に陥りがちな現代の生活スタイルにおいては、スポーツを通して体力向上や健康維持を図ることが重要となっています。本市では、子どもから高齢者まで、市民が気軽に健康・体力づくりができるよう、体育館・トレーニングセンター・武道館・運動場といった各種体育施設の整備や、スポーツ団体などの育成・支援を進めています。

Topic: 園芸家・「花あそび」主催 小林幸子 さん



バラの花は、一輪ずつ個性があり、一日のうちでも違った表情を見せてくれます。咲いた瞬間にふわっと香りを放ち、つかの間美しく輝いて儚く散ってしまう。花の命は短いですが、だからこそ魅力的だとも言えるのです。

「バラを育てる時に大切なのは、いつも目を向けてあげること。そっと見守ってあげて、手を差し伸べてあげる。そうすると、花が話しかけてくれるんです。手をかければ、かけただけ応えてくれます。子育てと一緒にすよね」と語る小林さんは、市場では入手困難なイングリッシュローズなど約600種800本を栽培し、埼玉県で開催される「国際バラとガーデニングショウ」



(上)イングリッシュローズ (中)ミニチュアローズ「波山の里」 (下)プリザーブドフラワー

では大賞を受賞するなど、各方面から高い評価を得ています。新種のバラづくりに熱心で、2006年にはミニチュアローズ科の「波山の里」を作り出しました。また、老人ホームでフラワーアレンジを教えたり、アレンジメント教室「花あそび」を主催して、たくさんの人にバラを楽しんでもらう活動を続けています。

数年前から、生花のない時期にもバラを楽しもうと、自分が育てたバラでプリザーブドフラワーを作り始めました。小林さんが育てているイングリッシュローズや大輪のバラをプリザーブドフラワーにするため、1年以上の試行錯誤を重ね

美しく輝くバラと共に、
生き活きとした時間を過ごしたい。

生涯学習 施設紹介

Facilities:



明野公民館 (イル・プリランテ)



生涯学習センター (ハアーノ)



筑西市立中央図書館

Subject:

地域文化振興

地域の文化を守り育む体制づくり



本市では、豊かな自然と恵まれた環境のもと、数々の文化遺産と伝統文化が継承されてきました。また、多くの芸術家や文化人を輩出してきた高い文化的環境を有するとともに、それぞれの地域においても特性に応じた文化・芸術が育まれ、今日のまちづくりに大きく寄与しています。本市では、こつした風土を活かして、歴史・伝統文化の保全・継承・活用と、文化・芸術の振興に努めています。

小栗内外大神宮太々神楽

歴史・伝統文化の保全・継承・活用
本市では、先人たちの豊かな歴史の営みを背景に、多くの文化遺産や伝統文化が生まれ、継承されてきました。しかし、そうした有形・無形文化財や埋蔵文化財、民俗文化財などの保存・伝承は、近年のめまぐるしい開発や生活様式の変化を受け、後継者の不足などの問題を抱えています。こうした伝統芸能や伝統的技術は、郷土の誇りとして地域社会のつながりを深め、愛着を育む大切な資産であり、地域の協力のもと、適切に保存・継承されていく必要があります。今後も文化遺産の調査・研究・保護を行い、関係機関との組織体制づくりを推進していきます。

歴史・伝統文化の保全・継承・活用



文化・芸術の振興
本市では、県内初の市立美術館を開館し、本市が誇る芸術や郷土ゆかりの作家の展覧会を開催するなど、文化・芸術に親しめる場の提供に努めています。また、地域での文化・芸術活動の拠点づくりや、市民の自主的な文化活動の支援、各種団体・サークルの育成などを通して、魅力ある文化・芸術のまちづくりを推進しています。今後も、美術館を拠点に、文化勲章受章者である板谷波山・森田茂の顕彰をはじめ、筑西市の文化を広く全国に発信するとともに、芸術祭や文化祭、新能の開催など、新たな市民文化を育む文化事業の充実にも努めていきます。

文化・芸術の振興



(上) 明野新能の公演に合わせて開催された市民参加のワークショップ (下) しもだて美術館での森田茂作品の展示

Topic: 劇団明野ミュージカル



明野公民館での10周年公演

劇団明野ミュージカルは、平成12年に旧明野町の住民参加型文化事業として結成されました。県内のアマチュア劇団では唯一、数々のプロードウェイミュージカルを上演している劇団です。現在の団員は30名ほど。10代から60代までの幅広い年齢層が集い、そのほとんどが社会人です。歌やダンスのプロに指導を受けながら、平日の夜や休日に稽古を積んで、年一回の公演を行っています。また、番外公演やワークショップなども行い、活動の幅を広げています。活動の目標は、筑西の地に舞台芸術ミュージカルを根付かせること。お客様に舞台を身近に感じていただき、それぞれの日常への活力にしてほしい。それが団員の皆さんの願いです。

Subject:

幼児・学校教育

子どもの能力を伸ばす教育の充実



中央図書館での読み聞かせ

近年、少子化・情報化・国際化といった要因により、子どもたちを取り巻く社会構造や生活環境が急激に変化し、多様化しています。本市では、保育施設や学校での幼児・学校教育の充実を図りながら、家庭や地域との連携のもと、子ども一人ひとりの個性や環境に応じた教育に取り組んでいます。また、様々な経験の機会を提供し、心豊かでたくましく生きる児童生徒の育成を目指しています。

幼児教育の充実

幼児期は、生涯にわたる人間形成の基礎が培われるきわめて重要な時期です。しかし、近年の出生率の低下に伴う少子化や、核家族化の進行といった環境の変化によって、幼児期における集団遊びや自然とのふれあいなどの減少や、家庭・地域における教育力の低下などが大きな問題となっています。本市では、市民のニーズに応じた幼稚園教育の充実や施設の整備充実を図っており、保護者の生活の多様化に対応して明野幼稚園及び私立幼稚園全園での預かり保育を実施するなど、保育サービスの充実に努めています。今後も、公立・私立幼稚園、保育所(園)の相互補完に努め、小学校、家庭、



(上) 筑西市小学校陸上記録会 (中) 平成21年に竣工した市立明野中学校校舎 (下) 新鮮な地元の農産物を活用した学校給食 (写真は明野中学校での様子)

学校教育の充実

本市では、自ら考え、主体的に判断し行動できる児童生徒の育成のために、創意と活力に満ちた特色ある学校づくりを推進しています。そのため、地域の歴史、文化、伝統を活かしつつ、教育環境の整備や教育内容の充実、様々な研修等による教職員の資質向上に努めています。また、不登校やいじめなどの早期発見・未然防止のため、

生活指導員や心の教室相談員、相談機関等との連携のもと、相談・指導の充実によるきめ細かな生徒指導の推進に取り組んでいます。今後とも、学校・家庭・地域及び関係機関相互の連携を図りながら、信頼と活力に満ちた開かれた学校づくりに取り組むとともに、ボランティア活動や自然体験、社会体験など様々な活動の場や機会を提供し、児童生徒の「生きる力」の育成を行っていきます。また、学校給食においては、新鮮で安全な地元農産物や旬の食材を活用し献立を工夫することで、児童生徒の心身の健康の基本となる「食育(食生活に関する様々な教育)」を推進するとともに、衛生管理による安全性確保と運営の合理化に努めています。



悠久の時を越え、古の鼓動が伝わる。



木造観世音菩薩立像

国指定重要文化財(彫刻)
指定年月日: 大正 11 年 4 月 13 日
所在地: 中綴地内
時代・時期: 鎌倉時代

内外大神宮

国指定重要文化財(建造物)
指定年月日: 平成 21 年 12 月 8 日
所在地: 小栗地内
時代・時期: 両本殿 江戸時代 御遷殿 室町時代



関城跡

国指定文化財(史跡)
指定年月日: 昭和 9 年 5 月 1 日
所在地: 関館地内
時代・時期: 鎌倉～南北朝時代



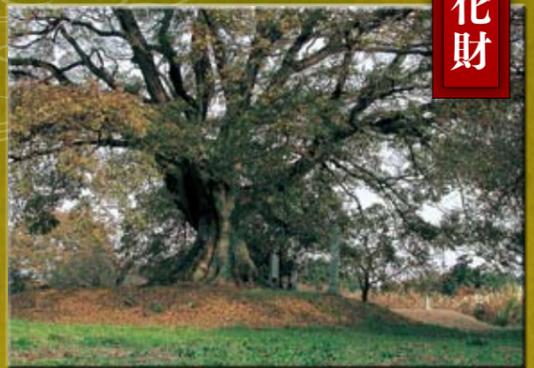
新治郡衙跡

国指定文化財(史跡)
指定年月日: 昭和 43 年 5 月 20 日
所在地: 古郡地内
時代・時期: 奈良時代



新治廃寺跡

国指定文化財(史跡)
指定年月日: 昭和 17 年 7 月 21 日
所在地: 久地楽～古郡地内
時代・時期: 奈良時代



県指定文化財

絹本著色両界曼荼羅図

国指定文化財(絵画)
所在地: 桑山地内
時代・時期: 室町時代
真言宗の根本思想を「金剛界曼荼羅(こんごうかいまんだら)」「胎藏界曼荼羅(たいざうかいまんだら)」の2幅に表した。水戸市の六地藏寺本と同じ頃のものとして注目されています。

羽黒神社本殿

国指定重要文化財(建造物)
所在地: 甲地内
時代・時期: 江戸時代

上羽黒神社本殿・拜殿

国指定重要文化財(建造物)
所在地: 岡芦地内
時代・時期: 江戸時代

木造愛宕明神立像

国指定文化財(彫刻)
所在地: 甲地内
時代・時期: 鎌倉時代
木造寄木造彩色の火天像で、鎌倉時代末期の作です。愛宕神社の御神体であり、かつては西郷谷(現在の羽黒神社付近)の鎮守として、世人の尊崇が篤かったと伝えられています。

来迎の弥陀

国指定文化財(絵画)
所在地: 森添島地内
時代・時期: 平安時代
来迎の弥陀は、絹本着色(けんぼんちやくしよく)の弥陀像で絹地表装の軸物です。平安時代、恵心僧都(えしんそうず)により制作されたものといわれています。

絹本著色八景の図

国指定重要文化財(絵画)
所在地: 中綴地内
時代・時期: 江戸時代
狩野正信(初代)を祖とする狩野派の巨匠狩野守信(探幽)の筆で、延宝2年(1674)探幽死去の年(72歳)の作です。

絵馬(羽黒神社)

国指定重要文化財(絵画)
所在地: 甲地内
時代・時期: 江戸時代
寛永15年(1638)の作で、木造檜材に金箔を押し、その中に彩色の馬が描かれています。水谷家第8代勝隆の子勝宗(備中松山城第2代城主)の武運長久を祈願して、家老鶴見内蔵助忠俊が羽黒神社に奉納したものです。

絵馬(上羽黒神社)

国指定重要文化財(絵画)
所在地: 岡芦地内
時代・時期: 江戸時代
羽黒神社に奉納されたものと同様、寛永15年(1638)の作で、木造檜材に金箔を押し、その中に彩色の馬が描かれています。奉納絵馬でこれほど大きいものはまれで、保存もよく水谷氏に関する史料として貴重なものです。



木造阿弥陀如来坐像

国指定文化財(彫刻)
所在地: 下星谷地内
時代・時期: 鎌倉時代
檜の寄木造り、漆箔玉眼、大きめの螺髪(らほつ)、波形の髪際、肉どり豊かな面相、写実的な衣の表現など、鎌倉時代慶派の特色を備えています。

木造狛犬

国指定文化財(彫刻)
所在地: 甲地内
時代・時期: 鎌倉時代
神社の本殿内を固める木彫の狛犬は平安時代から盛んに作られますが、中世以前の作例は残存数が少なく、この狛犬は県内に残る最古級のもです。



銅造誕生釈迦仏立像

国指定文化財(彫刻)
所在地: 小栗地内
時代・時期: 奈良時代後半
お釈迦様が誕生してすぐに七歩あゆんで、右手で天を左手で地を指差し「天上天下唯我独尊」と唱えられた姿をあらわしたものです。像容のすべてに奈良時代(8世紀末頃)の特徴を見ることができま。

螺鈿硯箱

国指定文化財(工芸品)
所在地: 中綴地内
時代・時期: 江戸時代
木造漆塗の螺鈿細工で、箱の四面に四季の風物、上面に唐風の宮殿と人物が配されています。元文元年(1736)5月13日、仙台藩5代藩主伊達吉村が江戸からの帰途、祖先ゆかりの地である観音寺に詣で寄進したものです。

銅鐘

国指定文化財(工芸品)
所在地: 岡芦地内
時代・時期: 室町時代
青銅造の天平式梵鐘で、形が細長く撞座はやや下方、池の間に銘文があります。永禄10年(1567)3月8日、水谷家第7代勝俊が、水谷歴代の菩提所である定林寺に寄進したものです。

板碑

国指定文化財(工芸品)
所在地: 岡芦地内
時代・時期: 鎌倉時代
この板碑は、定林寺檀中の羽田家が昭和38年に寄進した。天蓋の下に主尊である金剛界大日如来(バン)が刻まれています。定林寺は、下館城主の水谷家初代勝氏が市内稲野辺に在ったものを再建し菩提所としました。

大袖鎧

国指定文化財(工芸品)
所在地: 下中山地内
時代・時期: 江戸時代
室町期の様式を備えた江戸時代初期の作。大袖鎧は、明治2年(1869)版籍奉還の後、同8年石川家第9代総管により、厚誼会(こうぎかい)(士族会)発会に際し寄贈され、その後同会より石川家の守護神の八幡神社(下館城本丸内に鎮座)に奉納されました。

石造五輪塔

国指定文化財(工芸品)
所在地: 村田地内
時代・時期: 鎌倉時代
この五輪塔は、花崗岩製で空輪は宝珠形、風輪は三分の一円形、火輪は急傾斜をした鎌倉期の典型的な作例で貴重です。石造工芸の観点からしても、全体の風格、均整のとれたスタイルなどはすばらしく、鎌倉中期から末期ごろのものとして推定されています。

板碑

国指定文化財(考古資料)
所在地: 辻地内
時代・時期: 鎌倉時代
板碑は、板石塔婆とも呼ばれ、中世に盛業した供養塔の一種です。この板碑は、典型的な武蔵型の板碑で、緑泥片岩で作られています。天蓋の下に阿弥陀如来を表す梵字(キリク)を蓮座とともに薬研彫りで刻んだ、一尊種子の板碑です。

小栗内外大神宮太々神楽

国指定文化財(小栗民俗)
所在地: 辻地内
時代・時期: 江戸時代中期ころ

船玉古墳

国指定重要文化財(史跡)
所在地: 船玉地内
時代・時期: 古墳時代末期

伊佐城跡

国指定重要文化財(史跡)
所在地: 中綴地内
時代・時期: 南北朝時代

久下田城跡

国指定重要文化財(史跡)
所在地: 樋口地内
時代・時期: 戦国時代

板谷波山生家

国指定重要文化財(史跡)
所在地: 甲地内
時代・時期: 江戸時代



※1 …… 20 ページ掲載の解説文をご参照ください
※2 …… 24 ページ掲載の解説文をご参照ください
※3 …… 25 ページ掲載の解説文をご参照ください

筑西市が誇る豊かな景観と自然環境を守り、次代に継承していくことは、市民と行政の責務です。本市では、公害防止・ごみの減量化・資源リサイクルの推進などにより生活環境の改善を図り、人と自然が共生するまちづくりを目指しています。そして、計画的な土地利用や、生活インフラの整備、防犯・防災に努め、心の和む美しい景観と環境づくりを推進しています。

Subject:

環境整備

人と自然が共生する環境づくり



里山での田植え体験

豊かな環境を次代に繋げるために——
市民と行政が一体となり、環境の改善と保全に取り組んでいます。



(上)『通学路クリーン作戦』(村田小学校) (下)エコキャップ運動(ペットボトルのキャップを回収し、発展途上国へフクチンを贈る運動)

自然環境の保全

本市は、筑波山を望む美しい田園環境、鬼怒川・小貝川をはじめとする河川の水辺、里山・平地林などの自然環境に恵まれています。これらは、歴史ある市街地や潤いある集落環境とともに市民の宝であり、次代に引き継ぐべき心の拠り所です。

本市がさらなる発展を目指して様々な開発を行っていく上で、この豊かな環境を損なうことがあってはなりません。新たな時代に向け、人と自然の共生を重視しながら、心和む田園風景の保全や、地域にあった街並みの整備を図り、本市の個性や魅力が際立つ美しい都市環境づくりを推進しています。

本市がさらなる発展を目指して様々な開発を行っていく上で、この豊かな環境を損なうことがあってはなりません。新たな時代に向け、人と自然の共生を重視しながら、心和む田園風景の保全や、地域にあった街並みの整備を図り、本市の個性や魅力が際立つ美しい都市環境づくりを推進しています。

また、近年ますます市民の環境への意識が高まっており、河川の美化や里山の保全などに取り組む市民・団体による活動が活発に行われています。

景観づくりの推進

景観法や屋外広告物法といった法規制を適正に運用し、美しい自然景観と、歴史・風土が調和した筑西市らしい街並みの保全を行っています。それと同時に、都市基盤の整備を計画的に行うことで、昔ながらの景観との共存を図り、良好な居住環境を維持しながら、だれもが誇りを持って住み続けられる街並みづくりを推進しています。

また、市民の景観づくりへの積極的な参加を促し、自然環境・景観の保全に取り組む市民・団体の活動を支援しています。

計画的な土地利用と市街地の整備

本市の市街地は、下館駅を中心とした中心市街地と川島駅・玉戸駅周辺の副次的市街地、各地区の既成市街地、工業団地から構成されています。それぞれの市街地の特性を活かし、住民の理解と協力のもと、道路網・公共交通網、公園等の公共施設の計画的な整備を推進し、良好な住環境の保全と、ゆとりある住宅地の形成を進めてきました。今後も「都市計画マスタープラン」に基づく適正で合理的な土地利用や、都市再生整備計画を推進し、市の健全な発展と、市民が住み続けたいと思える魅力ある環境づくりを目指していきます。

循環型社会の形成

地球規模で資源の枯渇や気候の変動が危惧されている現在、環境負荷の少ない循環型社会の実現は急務となっています。本市では、市民と行政が一体となって、公共施設および民間における省エネ・省資源化、ごみの減量化・再資源化に取り組むとともに、粗大ゴミ等の不法投棄防止のための監視やパトロールを強化しています。

ごみの減量化に関しては、分別収集と資源ごみの回収を徹底するとともに、コンポストやEMほかし容器(生ゴミをたい肥にする容器)購入費用助成などの補助事業を実施し、有機ごみの減量と再利用に努めています。

公園・緑地の整備充実

公園や緑地は都市部における癒しの空間であるだけでなく、災害時の避難場所等、防災拠点としての役割を担っています。「都市計画マスタープラン」とあわせて、緑のまちづくりの指針として「緑の基本計画」を策定し、身近な公園やスポーツ・レクリエーションの拠点となる総合公園・運動公園等の計画的な整備を図っています。

また、アジサイの里親制度や街並みの緑化など、市民が主体となった緑化運動やボランティア活動を支援しています。

鬼怒川の美化を通して、自然とふれあうまちづくりを。

秋、鬼怒川の河川敷に100万本のコスモスが咲き揃います。伊佐山の鬼怒川河川敷に広がる花畑一面にコスモスが満開になる風景は圧巻です。コスモス畑は鬼怒川緑地公園の最南端にあり、遠くから見えるクルミの木がシンボルツリーとなっています。JR水戸線の車窓からも眺めることができ、9月下旬に行われるコスモスマツリでは、輪投げ大会やシャボン玉遊びなどが開催され、うらかな秋の一日を楽しむ方もたくさんの人で賑わいます。

「鬼怒川を愛する会」は、地元を流れる川を大切にしようと、環境美化に取り組むボランティア団体。雑草が茂り、ゴミが散乱していた河川敷を憂い、平成14年から清掃と花畑づくりを続けてきました。6月にはコスモスの種まきを下館西中学校の生徒と一緒に実施、花の数も年々増えています。4月は菜の花、5月にはポピーを咲かせ、他にもアジサイ・マリーゴールド・サルビアなど、四季折々の花を育てています。

「花畑づくりは雑草と石ころとの闘い。それでもきれいに咲くと苦労も忘れません」と中澤さんは語ります。

また、2月には鬼怒川で開催される漁協主催の鮭の稚魚放流会で、豚汁を配ったりゲーム等をして、子ども達や地域の人々がふれあえる機会を提供しています。

「私たちの身の回りにある自然をもっと身近に感じて、環境美化の大切さを知って欲しい。同じ気持ちを持った他の団体とも協力しながら、市民がやすらげる憩いの場を作っていきたいですね」と中澤さん。



中澤清一さん

Topic: 「鬼怒川を愛する会」会長 中澤清一さん



(上) 4000㎡の河川敷に咲き誇るコスモス (下) 菜の花畑で憩う子ども達



市民の皆様の声を市政に届け、
安心、安全に暮らせるまちづくりに
全力を尽くします。



議長 榎戸 甲子夫 (左)・副議長 水越 照子 (右)

市議会のしくみ

筑西市議会は、市民の選挙によって選ばれた26名の議員からなります。

議会は、年4回、3月・6月・9月・12月に開催される定例会と、必要に応じて開かれる臨時会とがあり、市長や議員から提出された議案や市民の皆さんから出された請願・陳述などを審議します。また、議会には4つの常任委員会と議会運営委員会のほかに、必要に応じて設置される特別委員会があります。

本会議は一般に公開され、個人でも団体でも自由に傍聴でき、市議会活動や市政の方針を知ることができ、傍聴席は48席あり、市役所内のテレビでも議会の様子を放映しています。また広報誌「議会だより」を刊行し、議会における審議内容を市民の皆さんにお知らせしています。

Subject:

防災・防犯

安全・安心なまちづくりの推進



筑西市消防団の出初め式

近年の生活様式や都市構造の変化により、火災発生・救急出動件数が増加するとともに、地域社会の犯罪抑止機能の低下が危惧されています。本市では、市民が安心してくらせる安全なまちづくりのため、消防・救急・防災対策の強化と、防犯・交通安全対策を推進するとともに、市民の自主的な防災・防犯活動を支援し、災害に強く、事故や犯罪が少ない都市づくりを進めていきます。

防災対策

本市の常備消防は、筑西広域市町村圏事務組合により、消防本部、下館消防署、関城分署、明野分署、協和分署、下館消防署川島出張所が配置されています。また、消防団は6中隊43の分団で構成されています。消防力の強化充実に努め、職員・団員の能力の向上や、消防・防災知識・訓練の徹底、災害予防対策の徹底を図っています。事故や災害・急病発生時には速やかに対処し人命救助ができるよう、救急救命士の養成をはじめとする救急隊員の能力向上に努め、自動体外式除細動器(AED)の計画的配置や救急資材の充実を図っています。



防犯対策

多様化・凶悪化が進む現代の犯罪を抑制するためには、警察・行政と市民が連携した防犯活動が不可欠です。市民防犯団体をはじめとする市民の自主的な犯罪防止活動を促進し、地域ぐるみで安心して暮らせるコミュニティづくりに取り組んでいます。現在、筑西地区防犯連絡員、自警団、青少年育成団体、子ども安全ボランティア等の協力により、防犯パトロールを実施するなどの防犯活動が行われています。また、高齢者や子どもを交通事故から守る運動を積極的に展開し、各種交通安全施設の整備、歩道の整備、放置自転車等の防止・排除を進めています。



(上) 動行川で行われた、筑西市消防団による放水訓練 (下) 集団下校中の小学校低学年の児童を、不審者や事故から守る「ばっちゃんボランティア」

Topic: 筑西市防災行政無線システム



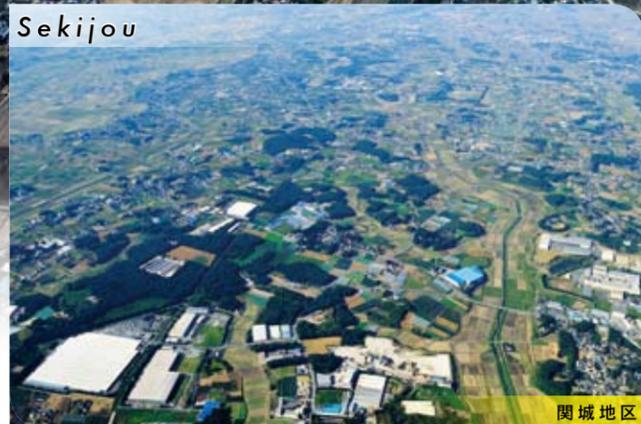
親局 筑西市役所 本庁の放送室

市民が安全に安心して暮らせるまちづくりを目指し、災害時の情報伝達や収集を主な目的とした「防災行政無線システム」が市内全域に設置されました。筑西市防災行政無線局によって運用が始まり、災害時には防災情報が拡声スピーカーから放送されます。具体的には、災害(水害・地震等)発生時の避難情報・緊急地震速報(震度5弱以上)・火災発生時の消防団への出動要請・他国からの武力攻撃等の情報・行方不明者等の捜索情報・正午および夕刻の時報・各種の行政情報となります。また、「双方向通信」に対応した屋外子局を、小学校・中学校など市内30か所に設置。屋外子局から親局への通話機能を利用して、緊急時の通信装置として活用します。



Shimodate

下館地区



Sekijou

関城地区



Akeno

明野地区



Kyowa

協和地区

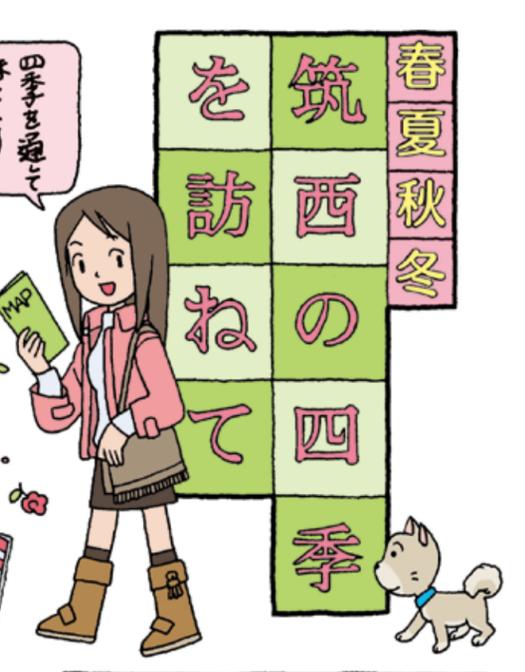
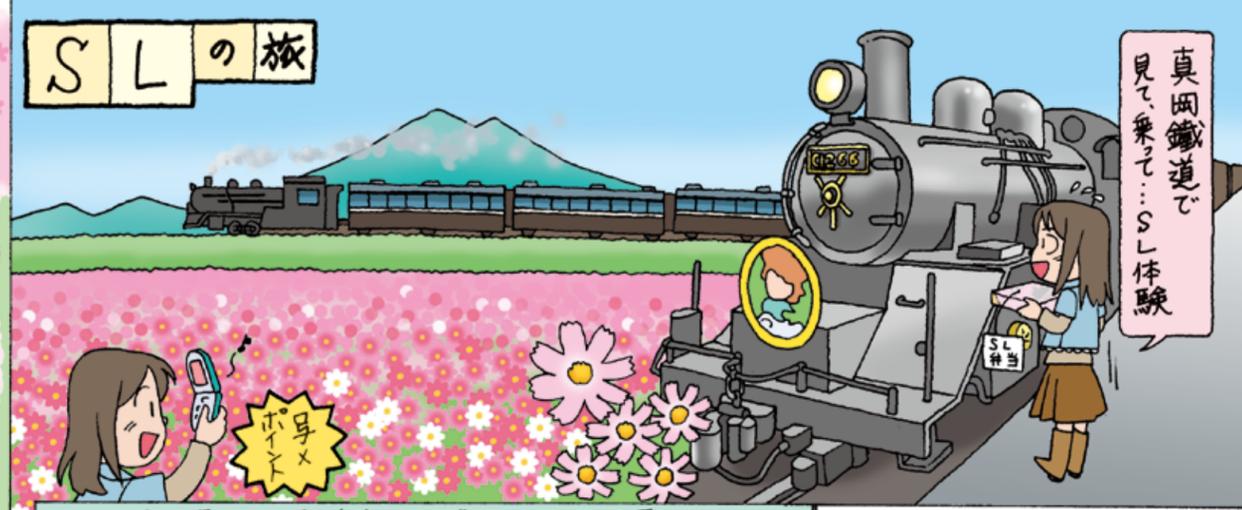
花火

桜

SLの旅

小栗判官まつり

春	夏	秋	冬
を	筑	西	訪
訪	ね	の	四
ね	て	四	季



あけの元気館

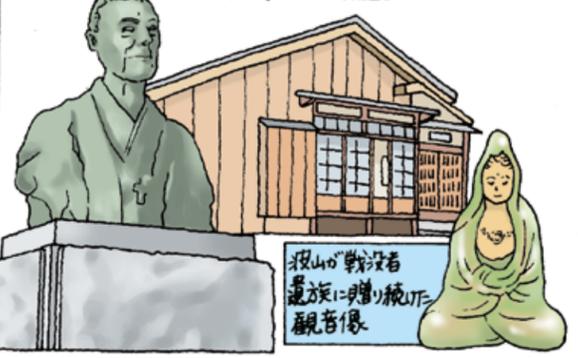
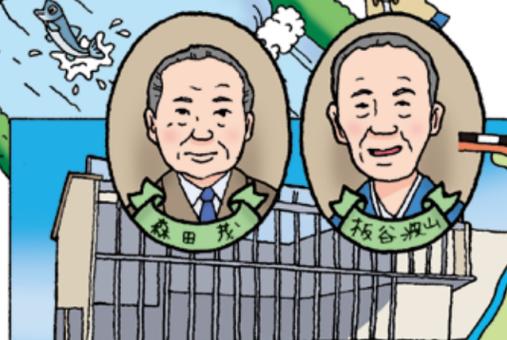
羽黒神社

灯ろう流し

魚圭の遊上

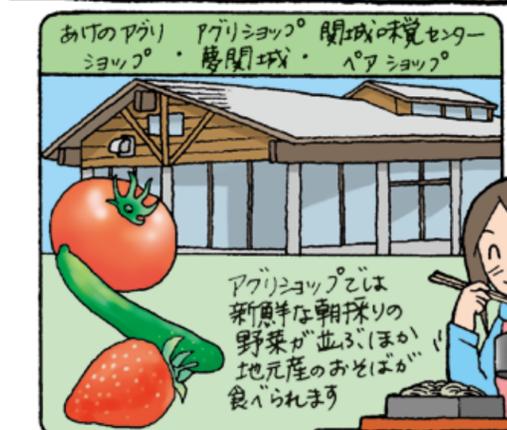
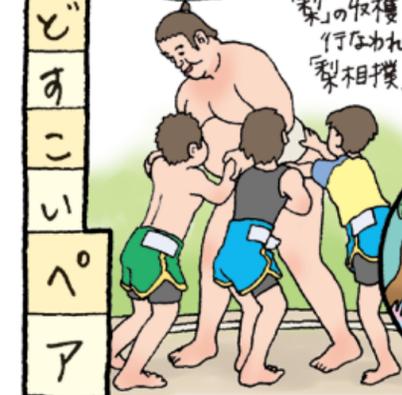


板谷波山記念館



しもだて美術館

名産品



小栗内外大神宮 木々神楽

ひまわり フェスティバル



● 市章

筑波山と河川に囲まれた緑豊かな大地をイメージし、人と自然が共生する筑西市の発展を表現しています。

グリーンは関東平野、緑豊かな大地を、ブルーは筑西市を流れる幾筋もの河川を、グリーンとブルーの組み合わせは穏やかさを、また、全体を丸におさめることにより、市民が一体となって豊かな未来のために協調していく姿勢を表しています。



● 市の木「さくら」

市内の全域に数多くの品種が植栽されており、名所も多く、広く市民に親しまれています。春、咲き誇る姿は美しく、存在感があり、また優しさも感じられます。新生・筑西市にふさわしい木です。



● 市の花〈春〉「なし」

筑西市は、日本で最も古い梨の産地のひとつ。県の銘柄産地に指定され、国内有数の産地です。梨の白い花は、清楚で気品が漂い、優しさを感じられます。市の繁栄のシンボルとしてふさわしい花です。



● 市の花〈秋〉「コスモス」

可憐でありながら、倒れても立ち上がる力強さを持つ花です。『宇宙』という意味があり、市の将来性と可能性を象徴しています。また『調和』の意味もあり、4市町合併で誕生した筑西市をイメージできます。



● 市の鳥「つばめ」

田植え期の田園を飛び交い、躍動感を感じさせるその姿は、筑西市の将来像にふさわしい鳥です。益鳥であり、幸せを呼ぶといわれています。軒先に巣を作る姿をよく見かけ、親近感を感じる鳥でもあります。



Chikusei 2010

筑西市勢要覧 2010

発行 筑西市
〒308-8616
茨城県筑西市下中山732番地1
電話 0296-24-2111(代)
<http://www.city.chikusei.lg.jp/>

編集 市長公室広報広聴課
発行日 平成22年3月
製作 株式会社デジタル印刷